



研究者と
研究について
一緒に考えてみませんか？



国民との科学・技術対話
Kyoto University

京都大学

アカデミックデイ2020

Kyoto University Academic Day 2020

報知書

開催日時：

2020年

12月

3日(木) 19:00-20:15

4日(金) 19:00-20:15

5日(土) 14:00-15:15

—身近なところが研究室に—

今年は史上初のオンライン開催

開催日 2020年12月3日(木)～5日(土)

開催形態 オンライン開催

目次	1. 概要
	1-1. イベント概要
	1-2. 湊総長からのメッセージ
	2. プログラム
	2-1. プレイベント
	2-2. オンラインでも膝詰め対話
	3. アンケート
	3-1. リスナー、対話参加者アンケート
	3-2. 対話研究者アンケート
	4. 次年度以降の検討事項
	5. 出展者情報
	6. 広報
	6-1. ポスター、中吊り広告
	6-2. ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)
	6-3. その他の広報物等
	7. 支援体制・準備スケジュール
	7-1. 支援体制
	7-2. スタッフリスト
	7-3. 準備スケジュール

1. 概要

1-1. イベント概要

2020年12月3日～5日、「京都大学アカデミックデイ2020」をオンラインにて開催しました。10回目となる今年は初のオンライン開催となり、3名の対話研究者が、一般公募の対話参加者とオンラインツールを使って対話を行いました。またその対話を視聴できるリスナーも募集し、対話参加者は延べ9名、リスナー延べ217名が参加しました。

「京都大学アカデミックデイ」は、市民や研究者、文系、理系を問わず、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的として、「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に国民の声を反映させることを目指しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からオンライン上での対話の形を試行しました。オンライン上でも研究者と一般の方の対話を大切にしたい思いから、研究者と対話する「対話参加者」を一般公募しました。またその「対話」を多くの方に見ていただくことも研究対話の一環と考え、対話研究者と対話参加者の対話を視聴するリスナーも募集しました。

オンライン開催をおこなうことにより、従来は実現が難しかった、実際の研究現場を見せることができたほか、これまで京都の会場まで来場することが難しかった遠方の方にも多く参加いただきました。事後アンケートからもオンライン開催の良さを歓迎するコメントが多く寄せられた一方、例年京都大学の百周年時計台記念館で開催している“研究者との直接対話”の魅力を経後のアカデミックデイに望む声も見られました。

企画のデザインや運営は学術研究支援室（KURA）、研究推進部研究推進課及び「国民との科学・技術対話」ワーキンググループが協働し、今回のオンライン開催の経験、参加者からの意見を参考にしながら、今後の対話活動をさらに発展させていきます。

1-2. 湊総長からのメッセージ

京都大学アカデミックデイにご参加のみなさまへ

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと創造の精神を涵養し、多様で質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してまいりました。歴史的に京都大学は自由な発想による独創的な研究により知を創造し、新しい知的価値の創出によって人々の福祉と社会の発展に貢献してきた大学であり、時代を超えて継承されてきた伝統があります。

今日、私達は予想を超えるテンポで進行する地球の気候変動と大規模な自然災害や地球環境悪化、様々な国際的対立抗争の激化や格差の拡大、さらには新型コロナウイルスに代表される感染症の拡大など、地球上の人々の生命と健康を脅かす多くの困難な課題に直面しています。今京都大学として、高度な多様性をもつ総合研究大学ならではの強みを最大限に生かし、これらの地球社会における多面的で困難な諸課題の解決に向けて真摯かつ果敢に挑戦し、着実にその成果を社会に発信していく必要があると思っています。



京都大学アカデミックデイは、みなさまと京都大学の研究者が直接対話をする場として企画したものです。学術研究の成果だけでなく、実際に研究が営まれている現場の様子や、1人の人間としての研究者を知っていただく機会になればと思っています。この機会を利用して、是非、研究者に直接疑問やご意見を投げかけてください。みなさまとの直接対話は、研究者にとっても自らの研究の社会の中の位置づけや課題を捉え直す良い機会となりますし、成果の社会還元の可能性や新たな活躍の場が広がることでしょう。

この対話の場である京都大学アカデミックデイが、みなさまと共に我が国の学術研究を育む場になることを期待しています。

京都大学総長 湊長博

2. プログラム

2020年度のアカデミックデイは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から新しい生活様式への転換が求められる中での開催となりました。不要不急の外出自粛が叫ばれる中、研究活動における“対話”の重要性は変わらないという方針のもと、オンライン上での対話の場の企画・提供を行い、新しい対話の場を試みました。これを通じ対話の場を必要とする研究者ニーズに応えることや、今後より自発的な対話の場への足掛かりとすることが目的です。



初めてのオンライン開催に備え、8月にアカデミックデイプレイベントを実施し、研究者や参加者等の意見をもとに本番の形式の検討を進めました。プレイベントでの参加者からの意見等を踏まえ、12月にアカデミックデイ本番を実施しました。

オンライン上でも研究者と一般の方の対話を大事にする観点から、本番では研究者と対話する「対話参加者」を一般公募しました。またその対話を多くの方に見てもらうことも研究対話の一環と考え、対話研究者と対話参加者の対話を視聴する「リスナー」も一般公募しました。

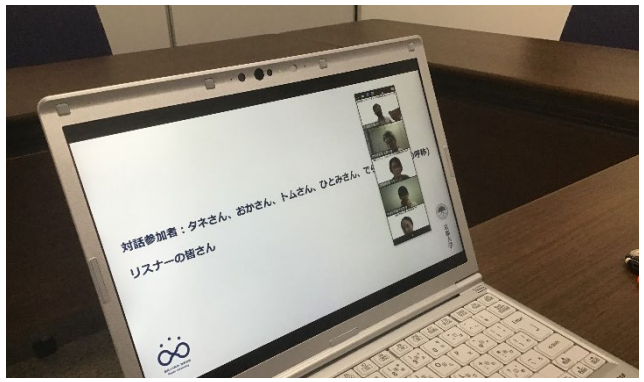
2-1. プレイベント

京都大学アカデミックデイを初めてオンラインで実施するにあたり、効果的な対話の場を創るための試行としてプレイベントを実施しました。イベントのフィードバックをアカデミックデイ本番の検討材料とすることを目的としたため、対話研究者、対話参加者は、イベントの趣旨を理解している方、効果的なフィードバックを得られそうな方に依頼しました。対話研究者は、国民との科学・技術対話ワーキングの委員でもある工藤洋教授（生態学研究センター）に参加頂き、対話参加者は、5名の方に依頼しました。リスナー（オーディエンス）は本番同様に一般から募集し、29名が参加しました。リスナーはウェブアンケート、対話研究者、対話参加者はイベント後のヒアリングにより企画への意見を伺い、本番への検討材料としました。

開催日時	2020年8月27日（木）17:30～18:30
開催形態	オンライン開催
対話研究者	工藤洋 教授、本庄三恵 准教授（生態学研究センター）
タイトル	「なぜわかる？花を咲かせる季節の到来」
概要	植物はじっとして動かないように見えますが、様々な機能を駆使して生活しています。その一方で、自然の中では、様々な環境要因が刻々としかも複雑に変化します。植物の機能がこの複雑な変化に惑わされて誤作動しては、自然界で生きていくことは難しいでしょう。私たちは、植物を対象に、様々な誤情報に惑わされないためのしくみ（＝頑健性）を研究しています。本イベントで



	<p>は、花をさかせる時期を調節する遺伝子のもつ頑健性について話題提供をします。</p> <p>次のようなことについての対話を通じて、研究に興味を持っていただければと思います。</p> <p>対話参加者として対話について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 季節とは何か？ ・ カレンダーなしで季節を知る方法？ ・ 植物の記憶？
対話参加者	タネさん、でらさん、トムさん、おかさん、ひとみさん
リスナー	29名
ファシリテーター	仲野安紗（学術研究支援室 URA、現 学際融合教育研究推進センター 特定准教授）



2-2. オンラインでも膝詰め対話

■ 2-1-1. 概要

開催日 2020年12月3日(木)～5日(土)

開催形態 オンライン開催

プレイベントを経て、迎えた本番では3日間で3名の対話研究者が参加し、それぞれ2名～4名の対話参加者とオンライン上で対話を実施。のべ217名のリスナーがオンライン上での対話を視聴しました。対話の場のファシリテーターは京都大学学術研究支援室(KURA)のURAが担当し、事前に対話研究者とどのような対話の場にするか個別に相談、調整を行いました。

■ 2-1-2. 申込方法

● 対話研究者

オンライン形式で行われた京都大学アカデミックデイ2020は、アカデミックデイ開催時間帯を予め提示した上で、参加可能な時間帯の情報も合わせて申込み方法をとりました。申込時に必要な方法、項目は下記の通りです。

〈方法〉

申込書に必要事項記載した上、申込書とWEB掲載画像を合わせてメールで申し込み。

〈項目〉

対話研究者情報

- ・部局名(公表)
- ・職名(公表)
- ・フリガナ
- ・氏名(公表)
- ・電話/内線
- ・E-mailアドレス
- ・「国民との科学・技術対話」活動の義務があるファンドの有無
- ・研究を紹介できるWEBサイト(公表)

タイトル(18文字以内)(公表)

概要(200文字以内)(公表)

対話参加者とどのような対話がしたいですか(200文字以内)(公表)

研究者からのひとこと(25文字以内)(公表)

対話の場の必要性・意気込み(200文字以内)

自由記載欄

イベント参加可能日時

● 対話参加者・リスナー

オンライン形式で行われた京都大学アカデミックデイ 2020 では、Zoom ウェビナーの URL を事前に参加者にお知らせする必要があったことから、完全事前申込制としました。

対話参加者は、実際に対話研究者との対話を行う性質上、参加人数に制限が設けられました。そのため、リスナーよりも先に応募が締め切られた上で、申し込み人数が多かった企画については選考も行われました。

リスナーの申し込み方法・回答が必要な項目については、「3. アンケート」をご覧ください。

〈対話参加者・方法〉

アカデミックデイ 2020 ホームページより、専用の申し込みフォームから申し込み

その後、企画参加への当選 / 落選メールを申込者に送り、当選者へは参加が可能か再度確認

〈対話参加者・項目〉

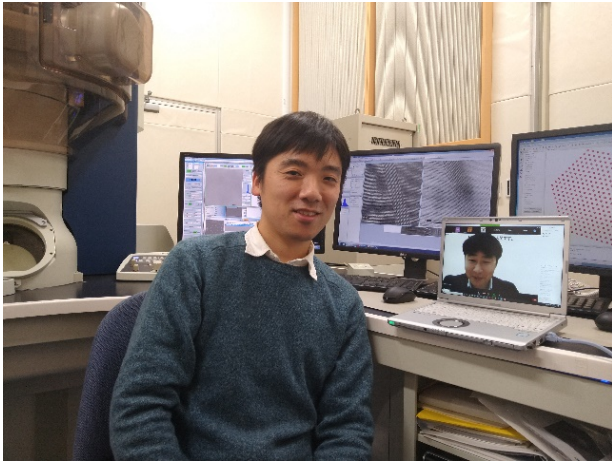
- ・ お名前 (回答必須)
- ・ ふりがな (回答必須)
- ・ メールアドレス (回答必須)
- ・ 電話番号 (回答必須)
- ・ ご年齢 (回答必須)
選択肢：10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上
- ・ ご職業 (回答必須)
選択肢：高校生・大学生、会社員・自営、教員・教育関連、研究者、公務員・団体職員、主婦、無職・アルバイト、その他 (※ その他の場合は自由記述)
- ・ 参加をご希望される企画 (回答必須)
選択肢：①12月3日(木) 19:00-20:15 「混ぜる科学：ハイエントロピー合金」新津甲大(工学研究科・助教)、②12月4日(金) 19:00-20:15 「『ない』世界を理解するとは？」西本希呼(学際融合教育研究推進センター・特定研究員/東南アジア地域研究研究所・連携講師)、③12月5日(土) 14:00-15:15 「精子幹細胞の保存」篠原隆司(医学研究科・教授)
- ・ 対話する研究者に聞きたいこと、話したいテーマ (自由記述・回答必須)
- ・ ニックネーム (自由記述・回答必須)
- ・ ご自身を紹介するキャッチコピー (自由記述・回答必須)
- ・ 【ご同意事項】 (チェック必須)
 - イベント本番において、ご自身のお顔、ニックネーム、キャッチコピー、イベント本番中のご自身の発言を WEB 上で公開することに同意する。
 - イベント本番の様子を撮影した動画について、ご自身のお顔、ニックネーム、キャッチコピー、イベント本番中のご自身の発言を含む写真や映像を、アカデミックデイ 2020 のホームページ上で公開することに同意する。
- ・ 【未成年の方がご応募される際はご確認ください】
 - 保護者の同意があります。

■ 2-2-3. オンラインでも膝詰め対話（各回紹介）

● 混ぜる科学：ハイエントロピー合金

研究者からの一言	『混ぜること』の科学が新材料を創るヒントになります。
概要	多種類の元素を混ぜ合わせた金属はハイエントロピー合金と呼ばれ、未開の材料分野とされてきました。今、この合金の持つ様々な可能性が注目を集めており、全く新しい材料設計の指針となりつつあります。材料設計の最先端を紹介します。
開催日時	12月3日（木）19:00~20:15
対話研究者	新津 甲大（工学研究科・助教）
対話したいこと	コーヒーと牛乳を混ぜたり、違う色の絵の具を混ぜて色を変えたり、『混ぜる』ことは実に身近な作業ですが、一度混ぜてしまうと元に戻すのは難しいものです。この理由を考えたことはあるでしょうか？『混ぜる』ということには深い科学があり、様々な材料の特性を改善する手法として今注目されています。身近な例を交えて、『混ぜる』ことの科学を紹介します。
対話参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・タネ さん 「普段先生達がどういう実験と結果を繰り返しているのか、話を聞けるのが楽しみです。」 ・うめやま さん 「『【混ぜる】ということには深い科学があり』という部分をもっと聞きたいです！」 ・アリコ さん 「混ぜること、そして変化することについて聞いてみたい。」
リスナー	71名
ファシリテーター	太田一陽（学術研究支援室、URA）





開催報告

アカデミックデイ 2020、初日は、工学研究科・助教の新津甲大先生と3人の対話参加者の対話を71名のリスナーが視聴する形で行われた。リスナーは、10～60代の幅広い年代、中学・高校生、京都大学・他大学の研究者・職員、会社員・自営業、主婦・主夫、アルバイト・無職の幅広い職業・属性の方々に参加いただいた。会社員・自営業の方が最も多かった。

イベントでは、最初に対話参加者が一人ずつ登場し、ファシリテーターによる紹介と対話参加者自身による自己紹介を行った。各対話参加者は、イベント中はニックネームで呼び合い、ご自身の特徴や興味を表すキャッチコピーをバーチャル背景に表示した。一人は、プレイベントにもご参加くださった常連者で、研究者の現場に興味があるタネさん。もう一人は、お仕事でも私生活でも人との対話に関わる取組みをされているうめやまさん。更にもう一人は、興味のあることは深掘りしたいアリコさん。対話参加者の紹介の後、対話研究者である新津先生が登場し、対話が始まった。

まず、新津先生がスライドでエントロピーの概念やその増大の法則、ハイエントロピー合金について、日常生活で見かける物や現象を写真や図で例に出して解説された。対話参加者とリスナーの方々に、ハイエントロピー合金についてより実感してもらえるよう、「少種類の金属を混ぜると、多種類の金属を混ぜるとどちらが混ざり易いか？」というクイズを出題し、リスナーの方々がZoomの投票機能を使って答え、その結果も踏まえて新津先生によるハイエントロピー合金についての解説がなされた。

次に新津先生が自ら実験室に移動し、実験室の様子や各種実験・測定装置の解説をされ、最後には電子顕微鏡を用いて原子が配列している様子をリアルタイムで見せながら解説された。新津先生が実験室に移動する間は先生との対話が途切れるため、その間の時間を有効活用して電子顕微鏡の値段を当てるクイズを、投票機能を使って行った。対話参加者の皆さんはその予想外の値段に驚愕された様子であった。

イベント全体を通し、対話参加者の方々は、疑問に思ったことをその都度新津先生に質問したり、話しかけたり、リスナーの方々は、ZoomのQ&A機能を使って適宜質問を書き込み、それをファシリテーターがタイミングを見てどんどん新津先生に質問したりすることで、対話は非常に盛り上がった。これにより、対話研究者の一方通行の解説ではなく、常時対話の形でイベントを進めることができた。

イベント後、対話参加者の御三方とリスナーの方々（回答数29名）へのアンケートの結果、殆ど全ての方より「良かった」「非常に良かった」との回答がなされた。普段接点の無い研究者と対話できた、話が聞けた、わかり易く説明していただき、研究者と対話参加者との対話やリスナーの質問に適宜答えてもらったことで、最先端で専門的な内容も理解できて良かった等、好意的な反応が多かった。これらの

ことから、対話参加者、リスナーの方々共に対話を楽しみ、研究者と研究内容について理解と興味を深めてもらったものと思われる。

ファシリテーター 太田一陽

● 「ない」世界を理解するとは？

研究者からの一言	「数詞のない言語」と聞いてどんな疑問が浮かびますか？
概要	専門分野は言語学とエスノマセマティックス。これまでマダガスカル、モーリシャス、トンガ、イースター島、フィジー、チューク島、インドネシア、ボリビア等で現地調査を行ってきた。「文字のない社会」での研究に従事した末、現在は数の概念に着目し、2019年に「数詞のない言語」話者を追い求めてボリビアで現地調査を行った。本イベントは、「数詞のない言語」を切り口に、我々人間とは何かという問いを一緒に考えたい。
開催日時	12月4日（金）19:00~20:15
対話研究者	西本 希呼（学際融合教育研究推進センター・特定研究員/東南アジア地域研究研究所・連携講師）
対話したいこと	皆さんは「数詞のない言語」と聞いてどんな疑問が思い浮かびますか？自分にとって「ない」世界に直面したときどうしましたか？「ない」世界とは、例えば、自分には「ない」価値観、「ない」ことが想像できない生き方等です。科学的に「ないことを証明する」ことはとても難しいです。数えるとは何だろう？なぜ人間は数えるのだろうか？私の4歳からのこれらの問いを通じて、人間とは何か、一緒に考察していきたいです。
対話参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・にやか さん 「人間とは。人の存在とは何か。『自分』とは何か、を聞きたいです。」 ・まゆげ さん 「なぜ『ない』に興味をもったのですか？」 ・飛鳥 さん 「『時間』は現代の日本人の生活の中心とも言えますが、数詞や文字がないところでどういった生活がされているのか大変興味があります。」 ・おーいちゃん さん 「自分と異なる立場の方に、どのようにすれば思いを伝え、目指したい方向にともに進んでいくことができるのか。数詞がないということ、どのようにして発見したのかを聞きたい。」
リスナー	105名
ファシリテーター	大西将徳（学術研究支援室、URA）



開催報告

アカデミックデイ 2020、2 日目はフィールド言語学を専門とする西本希呼 学際融合教育研究推進センター・特定研究員/東南アジア地域研究研究所・連携講師による『『ない』世界を理解するとは?』がテーマでした。対話参加者 4 名、リスナー105 名が参加しました。

西本先生の研究にまつわる自己紹介の後、ポリビアでの調査の四苦八苦した様子を撮影した写真のスライドショーから対話の場は始まりました。数詞がないと記録されていたチキト語話者を探すためにポリビアに赴き、チキト語話者どころか、初めはなかなか人間にも会えないフィールドワークの難しさが語られました。やっと会えたチキト族もチキト語を喋る方は見つからず、その続きは対話の場の最後に。

「雪にどんな印象を持ちますか?」、「今日数えたモノは何ですか?」、「リズムは何拍子までであると思いますか。」といった西本先生からの質問に、対話参加者だけでなく、リスナーもウェビナーの投票機能を用いて答えながら進行し、数詞のない(少ない)言語を研究して抱いた問い「人間はなぜ、なにを、数えるのか?」に迫っていきます。「空にかかる虹を見たのはいつですか?」という質問では、毎日虹を見ているから“虹”を表す言葉が何だったかすぐに思い出せないというショナ語話者のエピソードや、虹を何色で表現するかが言語によって異なることを紹介した上で、色彩語彙が少ない言語話者だからといって色が見えていないわけではないということも話題になりました。

対話参加者が即興で絵文字を描いてみるという場面も。お題は「うそつき」、「たくさん」、「ひとりぼっち」、「質問」。4 人の対話参加者がそれぞれの感じたものを絵文字に描き、西本先生からはアメリカインディアンの絵文字が紹介されました。アメリカインディアンの「うそつき」は二枚舌を表現。そこでも、「うそをつかない人はいない。“うそ”という言葉がなくても、うそがないわけではない。“ありがとう”という言葉がない言語でも、感謝の気持ちがないわけではない。」と、言語がないことと人間の認識

の関係に関する対話がありました。

『数詞が1、2、たくさん』、『1、2、3、たくさん』までの言語についてどんな疑問や印象を持ちますか？」という西本先生からの問いに対しては、「正確な数値がないと不便ではないですか？」、「明日の約束はできそうですが、3-4日後以降の約束はできなさそうですね。」といった意見も寄せられました。これに対し西本先生からは、マダガスカルやボリビアではお金を数えるときには、フランス語やスペイン語を使っていることが紹介された一方、漢字やローマ字でも1、2、3（一、二、三；I, II, III）と4（四、五…；IV, V…）以降で文字の構造が異なること、英語の助数詞が3から規則的なこと、また日本語の今日、明日、明後日、明々後日に4日後以降の表現がないことなどが指摘されました。数詞がないからといって数えていないわけではないことや、「1、2、3、たくさん」が意外に身近にあることに気づかされるエピソードです。

会の終わりは“他人に譲れないもの”にまで話題が広がりました。冒頭のボリビアの旅も、帰国三日前にチキト語話者に出会うことができたようです。終了間際、西本先生からの言葉で会は終了しました：「人間とはなにか、私とは何か、答えは見つかっていない。それが分かたら私は研究することはないかな？と。違和感、例外には物事、人間を理解する手掛かりがある。数詞がないと聞いて、はじめは身近でないと思ったが、実はすぐそばにあった。」

ファシリテーター 大西将徳

● 精子幹細胞の保存

研究者からの一言	がんが治っても困っている子供がたくさんいるんです。
概要	精子幹細胞は精子形成の源になる細胞である。近年のがん治療の進展とともに不妊になる男性が増加している。成人であれば精子凍結を行うことで妊孕性を保護できるが、精子がない小児では不妊症になる確率が高い。そこで精子幹細胞を凍結し、悪性疾患の治療後に自家移植を行うことで不妊治療を行う可能性が検討されている。本グループはげっ歯類の精子幹細胞の培養法を開発し、この方法をヒトへも展開するべく研究している。
開催日時	12月5日（土）14:00~15:15
対話研究者	篠原 隆司（医学研究科・教授）
対話したいこと	近年の医学の進展により、がんが治る可能性が高くなっており、20代の成人の500人に一人が悪性疾患の生存者です。今、その副作用について考える必要が生じています。生殖細胞は命に関わりがないために無視されがちですが、がん治療のために子供を作れない人が増えています。この現状について海外では取り組まれています。国内ではほとんど無視されています。あなたはどのように考えますか？
対話参加者	・タネ さん 「精子幹細胞は男児にもあり、それが大人になると精子として成熟し、定期的に作られるって事でしょうか。とはいえ幼児のタイミングで全員が幹細胞を保存しておくのも難しそうだと感じます。」 ・ばっさー さん

	「ガンの生存率が高まってきたことで注目されるようになった課題かと思いますが、精子も長い目で見れば進化しているのでしょうか？」
リスナー	41名
ファシリテーター	白井哲哉（学術研究支援室、URA）



開催報告

京都大学アカデミックデイ 2020、最終日 3 日目は土曜日のお昼、医学研究科の篠原隆司教授による「精子幹細胞の保存」がテーマでした。ファシリテーターは学術研究支援室の白井哲哉 URA、対話参加者はタネさんとバツサーさん。タネさんはプレイベントと初日にもご参加いただいた京都大学アカデミックデイの常連さん、バツサーさんは元考古学の研究者といったお二人でした。リスナーは 41 名、中学生から大学生だけでなく、30 代から 60 代、70 代以上の方など幅広い方に見ていただきました。

篠原先生はまず、ご自身が精子幹細胞の研究を始めたきっかけから、ノーベル生理・医学賞を受賞された本庶佑先生のもとでの研究エピソードなどを紹介してくれました。篠原先生からしか聞けない当時の特別なエピソードに、対話参加者もファシリテーターも興奮しました。精子幹細胞研究の魅力を語っていただいた後は、篠原先生は実験室に移動、実際に使っている機材や試料を実験室からの中継という形で紹介してくれました。そして最後は、小児がんによって精子が作れなくなった人を救うための研究

について。研究成果を患者さんに届けるため、多くの課題にチャレンジされている篠原先生の研究が良くわかりました。

対話参加者のお二人からは、先生の研究の技術的なことから、先生のモチベーションまで終始幅広い質問を投げかけていただき、感嘆の声も飛び交う対話となりました。リスナーからも、対話参加者の質問のおかげで「先生の人柄や情熱がわかった」といった感想が寄せられていました。最後には、リスナーからの質問「研究者になるには？」に対し、篠原先生の想いの入った経験談を語っていただきました。篠原先生には終了後にもリスナーからいただいた質問に丁寧に回答いただきました（詳細は「2-2-5 イベント終了後のリスナーへのフォロー」をご覧ください）。篠原先生とのお話で、精子幹細胞の研究だけでなく「研究者として生きるとはどういうことか」についても興味を持ってもらえる機会になったかと思えます。

ファシリテーター 白井哲哉

■ 2-2-4. オンラインイベントとして新たに仕掛けたこと

● イベント時間

プレイベントではイベント時間は60分としましたが、対話の時間として60分では短いという意見を受け、本番のイベント時間は75分としました。

● 申込者への対応

〈対話参加者〉

イベント各回のファシリテーターが、それぞれの回に参加する対話参加者に対し、バーチャル背景やZoomウェビナーURLの送付、イベント終了後のお礼など、適宜メールで連絡を取り合いました。

〈リスナー〉

当日視聴用のZoomウェビナーURLを、イベント当日の午前中にメールで送りました。多くの宛先をBCGにした場合、メールの受け取り拒否率が上がるという問題を踏まえ、メールはメール配信ツールを使って送信しました。

● バーチャル背景

プレイベント・本番ともに、対話参加者の皆様には事前に背景画像をメールにてお送りし、当日はバーチャル背景として使用いただきました。背景画像は基本的に、事前申し込みの際に対話参加者の皆様にご記入いただいたキャッチコピーを、白地のスライドに書き込んだ画像が用いられました。2日目のみ、対話研究者のご希望により、白地ではなく参加者ごとに色の違うスライドにキャッチコピーを書き込んだ背景画像が用いられました。バーチャル背景を用いた目的は2点、1) 対話参加者の属性や興味といった立ち位置を、対話研究者やリスナーに対し効率的に示すため、そして2) プライバシーの観点から、対話参加者がいる部屋の風景が映り込まないようにするためでした。

この仕掛けは概ね好評でしたが、イベント時間の関係で背景を活かす質問があまりできなかったことを残念がる声もありました。また、PCの仕様でバーチャル背景を使用できなかった対話参加者がいたことは、今後の課題として考えられました。



● 投票機能

Zoom ウェビナーの機能として、イベントの間リスナーは音声を発してコメントや質問をすることはできませんでした。しかし、リスナーにもイベントに積極的に参加してもらうため、選択式の質問を画面上に提示することで、イベントに参加している全員が質問に回答することができる投票機能を随所で効果的に用いました。質問への回答や結果の共有を通じて、単純な視聴ではなく対話研究者との双方向のやりとりがリスナーにも生じることで、対話参加者だけでなくリスナーの満足度もより高いものとなりました。

● Q&A 機能

上記「投票機能」と合わせ、リスナーには疑問に思ったことや感想などを Q&A 機能経由で書き込んでもらうよう、イベント冒頭でお伝えしました。チャットではなく Q&A を用いた理由は、Q&A 機能の場合は匿名でメッセージの送信が可能であったからでした。

イベント中は、ファシリテーターではない URA が寄せられたメッセージをチェックする係となり、質問メッセージの場合はそれを付箋に書き出し、対話研究者と対話参加者の対話の流れに応じてファシリテーターに手渡すことで、イベント内でリスナーからの質問も取り上げてもらえる体制としました。

● 対話研究者へのサポート

イベント当日は、アカデミックデイの趣旨、対話参加者の紹介、そして対話研究者の紹介が終わった後、まずは 10 - 15 分程度を使って研究者ご自身の研究を発表いただくスケジュールでした。そこで、研究者の方々には事前にパワーポイントでスライドを複数枚ご用意いただきました。事前に発表資料をご用意いただく、という作業はこれまでのアカデミックデイと同じですが、今回は Zoom ウェビナーを用いて対話参加者と対話しつつ、10 歳未満～60 歳以上の顔の見えない市民にもリアルタイムでイベント内容を発信する、というこれまでに経験のない試みでした。当日のイベント進行を円滑にするため、例年は出展者事前説明会を行っていましたが、今年度は担当 URA が個別に各研究者と複数回打ち合わせを行い、対話参加者の紹介・選定や対話参加者とリスナーから寄せられた事前質問の共有、またスライドの構成や発表内容の調整、さらに本番さながらの発表練習まで、研究者からの要望に応じてサポートを行いました。

■ 2-2-5. イベント終了後のリスナーへのフォロー

Q&A 機能経由で寄せられたリスナーからの質問は、75 分というイベント時間の関係上、その全てには回答できませんでした。これについて、事後アンケート等を通じて、リスナーの方から「自分の質問にも答えて欲しかった」という声を多数いただきました。そこで、事前アンケート並びにイベント中の Q&A 機能経由で寄せられたリスナーからのご質問を取りまとめた上で、イベント終了後、対話研究者の 3 名の先生方にそれぞれのご質問について可能な範囲でご回答いただきました。

ご回答いただいた内容は先生ごとに PDF 形式でまとめられ、アカデミックデイ 2020 ホームページ上で閲覧のみ可能（ダウンロード不可）の状態で開催されています。公開に際し、事前アンケートにて、「アカデミックデイ事務局から今後のメール配信を希望する」という項目にチェックを入れたリスナー向けに、質問への回答がアップロードされたことを知らせるメール配信も、メール配信ツールを用いて行いました。

3. アンケート

3-1. 対話参加者・リスナーアンケート

■ 3-1-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、対話参加者の方達にイベント後、アンケートへの回答にご協力いただきました。イベントの印象や研究者との対話の中での気づき、イベント内にあった仕掛けの是非などについて、主催者が知ることがこのアンケートの目的でした。

一方、リスナーの方達には2種類のアンケートにご協力いただきました。1種類目は、事前申し込みの際に付随したアンケートです。先生に聞いてみたいことや、どのような人が参加を申し込まれたのかについて、主催者が知ることがこのアンケートの目的でした。

もう1種類は、イベント後にご協力いただいた「事後アンケート」です。研究者との対話やその視聴で印象に残ったこと、オンラインで実施することの是非などをご記入いただきました。

● 事前申込・アンケート（リスナー）

〈方法〉

- ・アカデミックデイ 2020 ホームページより、イベント申し込みの際にアンケートもウェブフォームに埋め込み、回答
- ・申込兼アンケート受付期間：各回当日午前8時まで

〈設問〉

- ・問1. お名前（回答必須）
- ・問2. メールアドレス（回答必須）
- ・問3. ご年齢（回答必須）
- ・問4. ご職業（回答必須）
選択肢：小学生、中学生、高校生、高等専門学校生、京大生、京大以外の大学の学生、京大教員・研究者、京大職員、その他] ※その他の場合は自由記述
- ・問5. お住まいの地域
選択肢：京都市、京都府（京都市以外）、その他] ※その他の場合は自由記述
- ・問6. 参加ご希望される企画（回答必須・複数回答可能）
選択肢：① 12月3日（木）19:00 - 20:15 「混ぜる科学：ハイエントロピー合金」新津甲大（工学研究科・助教）、② 12月4日（金）19:00 - 20:15 「「ない」世界を理解するとは？」西本希呼（学際融合教育研究推進センター・特定研究員／東南アジア地域研究研究

所・連携講師)、③12月5日(土)14:00-15:15「精子幹細胞の保存」篠原隆司(医学研究科・教授)

- ・問7. その他(今回参加しようと思われたきっかけや、この企画に期待する事、当日に聞いてみたい話などありましたら、自由にご記入ください。いただいた内容は、対話参加研究者、京都大学アカデミックデイ事務局でのみ共有します。)
- ・問8. アカデミックデイ2020を知ったきっかけ(回答必須)
選択肢: ポスター(中学校)、ポスター(高校)、ポスター(京都大学)、ポスター(その他の大学)、ポスター(その他の公共施設)、市バス、地下鉄、新聞記事、京都大学HP(京都大学、KURESEARCH)、SNS(ツイッター、フェイスブック等)、メール案内、知人からの紹介、Peatixの案内・広告、その他(※その他の場合は自由記述)
- ・問9. 京都大学アカデミックデイへの参加(回答任意)
選択肢: 初めて、その他(※その他の場合は何回参加したかを記入)
- ・問10. 京都大学の他のイベントへの参加(回答任意・複数回答可能)
選択肢: 春秋講義、京大ウィークス、京都大学オープンキャンパス、ホームカミングデイ、その他(※その他の場合は自由記述)
- ・問11. 京都大学HP等の閲覧(回答任意)
選択肢: よく閲覧する、数回閲覧したことがある、閲覧したことがない・知らない
- ・問12. 科学・技術に関心がありますか?(回答任意)
選択肢: とても関心がある、関心がある、関心があるともないとも言えない、関心がない、全く関心がない、わからない
- ・問13. 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか?(回答任意)
選択肢: はい、いいえ、わからない
- ・問14. 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか?(回答任意)
選択肢: 見つけれられた。大抵、その内容は容易に理解できる。 / 見つけれられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。 / 見つけれられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけれられない。 / わからない。
- ・問15. メール配信(希望者のみチェック)

● 事後アンケート（対話研究者）

〈方法〉

- ・ ウェブフォームから回答

〈設問〉

- ・ 問 1. どの企画に参加されましたか？（回答必須）
選択肢：1. 12月3日（木）「混ぜる科学：ハイエントロピー合金」新津先生、2. 12月4日（金）『『ない』世界を理解するとは？』西本先生、3. 12月5日（土）「精子幹細胞の保存」篠原先生
- ・ 問 2. 本イベント全体の感想を教えてください。（回答必須）
選択肢：非常に良かった、良かった、どちらとも言えない、あまり良くなかった、良くなかった
- ・ 問 3. 上記で選んだ回答に対して、そう感じられた理由を教えてください。（自由記述任意）
- ・ 問 4. 研究者との対話の中で、研究内容や研究者自身について気づいたこと、発見したこと、印象に残ったことがあれば教えてください。（自由記述任意）
- ・ 問 5. ファシリテーター（司会）の進行はいかがでしたか？（今後の改善ため、率直なご意見を頂けますと幸いです。）（自由記述任意）
- ・ 問 6. 本イベントでは、対話参加者皆さんの立ち位置（属性、興味など）を示すために、キャッチコピー背景を用意しました。この目的のために、キャッチコピー背景以外により方法がありましたら教えてください。（自由記述任意）
- ・ 問 7. アカデミックデイ 2020 のよかった点、改善点について教えてください。（自由記述任意）
- ・ 問 8. 今回の企画は Zoom でのオンライン開催となりましたが、オンライン開催で良かったこと、或いは、不便に感じたこと、困ったことなど、感想を教えてください。（自由記述任意）
- ・ 問 9. オンラインでのアカデミックデイについて、あなたが参加しやすい曜日や時間帯を教えてください。（自由記述任意）
- ・ 問 10. オンラインでのアカデミックデイについて「こんなことをしてほしい」企画のアイデアや、要望などありましたら、教えてください。（自由記述任意）
- ・ 問 11. これまでにアカデミックデイに参加されたことがある方へ質問です。オフライン（京大へ足を運ぶ）開催とオンライン開催、どちらの方が良かったと感じましたか？また、その理由について



て教えてください。(自由記述任意)

● 事後アンケート (リスナー)

〈方法〉

- ・ ウェブフォームから回答

〈設問〉

- ・ 問 1. 年齢 (回答必須)

選択肢：10 歳未満、10 代、20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 歳以上

- ・ 問 2. 職業 (回答必須)

選択肢：小学生、中学生、高校生、高等専門学生、大学生・大学院生 (京都大学)、大学生・大学院生 (京都大学以外)、大学教員・研究者 (京都大学)、大学教員・研究者 (京都大学以外)、大学職員 (京都大学)、大学職員 (京都大学以外)、教員・教育関係者、研究者、会社員・自営業者、主婦・主夫、無職・アルバイト、その他 (※その他の場合は自由記述)

- ・ 問 3. 本イベント全体の感想を教えてください。(回答必須)

選択肢：非常に良かった、良かった、どちらとも言えない、あまり良くなかった、良くなかった

- ・ 問 4. 上記で選んだ回答に対して、そう感じられた理由を教えてください。(自由記述任意)

- ・ 問 5. 研究者と参加者の対話を視聴して、研究内容や研究者自身について気づいたこと、発見したこと、印象に残ったことがあれば教えてください。(自由記述任意)

- ・ 問 6. 企画中の Q&A 機能での質問への回答について、取り上げるタイミング、取り上げる質問の選び方は適切でしたか？良かった点、改善すべき点など感じられたことを教えてください。(自由記述任意)

- ・ 問 7. 今回の Zoom でのオンライン開催で不便に感じられたこと、困ったことがあれば教えてください。(自由記述任意)

- ・ 問 8. オンラインでのアカデミックデイに参加しやすい曜日や時間帯を教えてください。(自由記述任意)

- ・ 問 9. オンラインでのアカデミックデイについて「こんなことをしてほしい」企画のアイデアや、要望などありましたら、教えてください。(自由記述任意)

- ・ 問 10. これまでにアカデミックデイに参加されたことがある方へ質問です。オフライン (京大へ足を運ぶ) 開催とオンライン開催、どちらの方が良かったと感じましたか？また、その理由について

て教えてください。(自由記述任意)

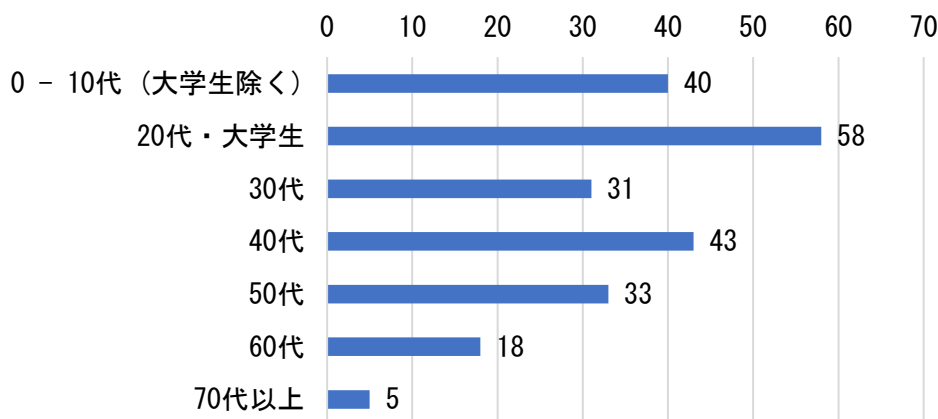
■申込者・参加者人数の内訳

- ・対話参加者 9 人 (12 月 3 日 : 3 人、12 月 4 日 : 4 人、12 月 5 日 : 2 人)
- ・リスナー事前申込数 228 人
 - ※ 同一人物が複数イベントに申し込んだ場合、重複カウントはしない
- ・リスナー登録数 404 人 (12 月 3 日 : 110 人、12 月 4 日 : 180 人、12 月 5 日 : 114 人)
- ・リスナー当日視聴数 217 人 (12 月 3 日 : 71 人、12 月 4 日 : 105 人、12 月 5 日 : 41 人)
- ・事後アンケート回答者数
 - ・対話参加者 7 人 (回収率約 78% : 12 月 3 日 : 3 人、12 月 4 日 : 4 人、12 月 5 日 : 2 人)
 - ・リスナー 95 人 (回収率 約 44%)

■事前アンケートの結果 : 回答はリスナーのみ

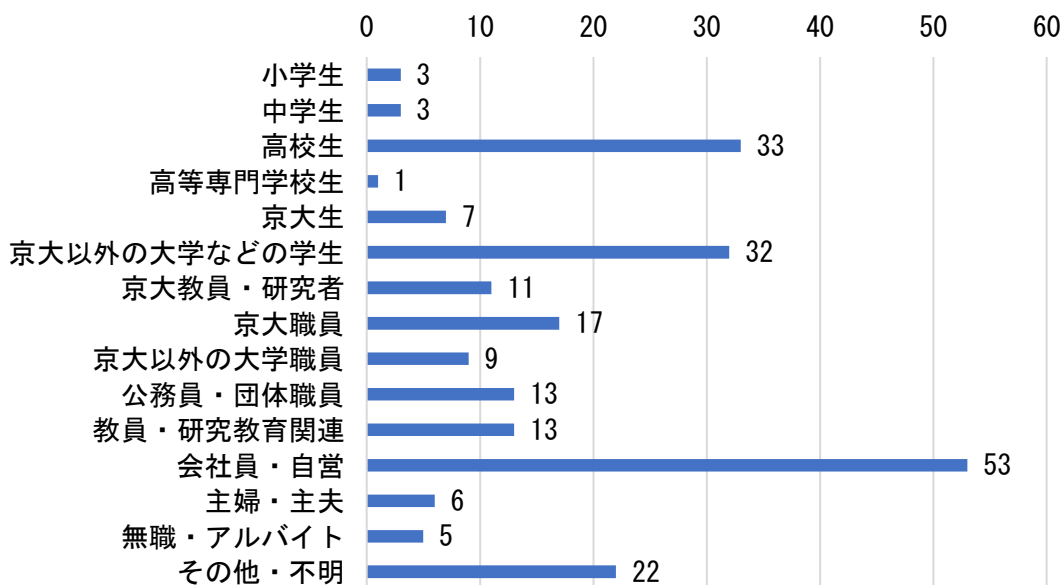
●事前申込者はどのような方だったのか?

・年齢層



(単位 : 人)

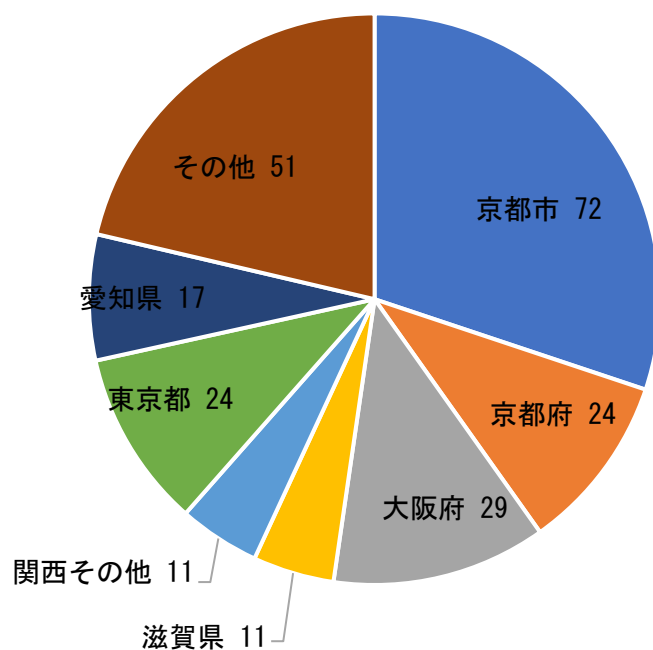
・所属



(単位：人)

※ 「京大以外の大学職員」～「その他・不明」は事前アンケート設問「問2. ご職業」で「その他」と回答されたものより集計。

・住まい



(単位：人)

※その他の内訳：

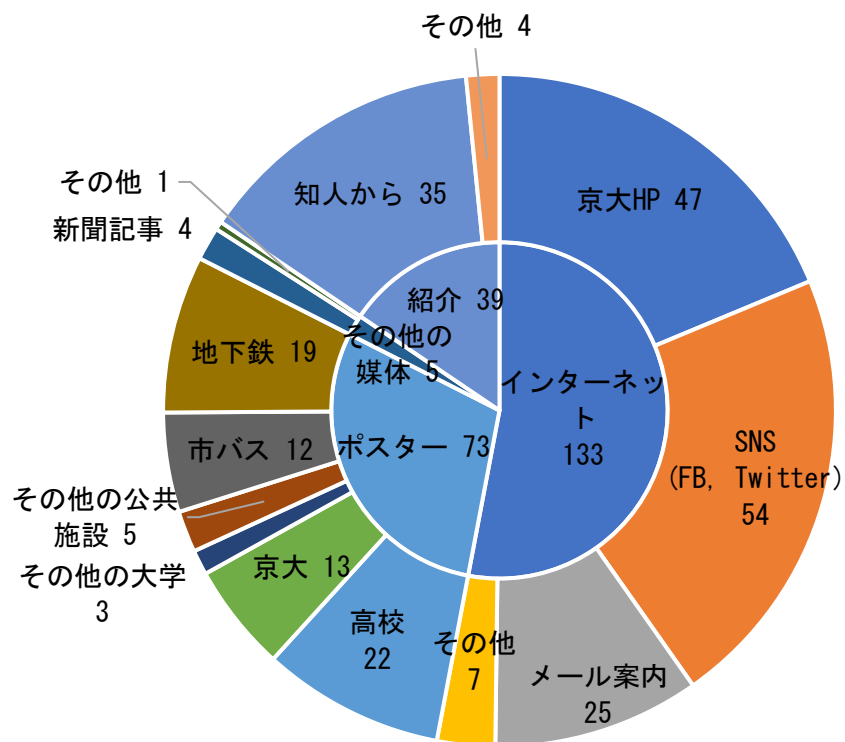
関西その他：兵庫 8、奈良 1、和歌山 2

その他：北海道 1、宮城 1、茨城 1、埼玉 3、千葉 2、神奈川 6、新潟 1、長野 2、石川 1、三重 4、岐阜 1、岡山 2、広島 2、山口 1、徳島 2、福岡 2、大分 1、熊本 1、沖縄 1、海外 4（アメリカ合衆国、

中国、ウルグアイ東方共和国)、不明 1

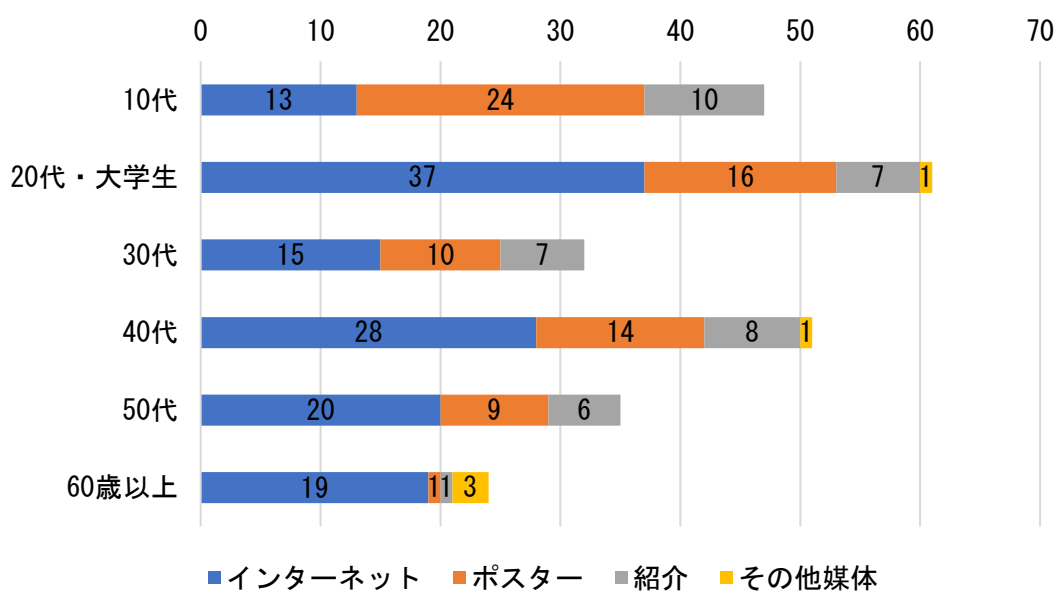
● リスナーは京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？（いずれも複数回答含む）

・開催を初めて知ったところ（全体）



(単位：件)

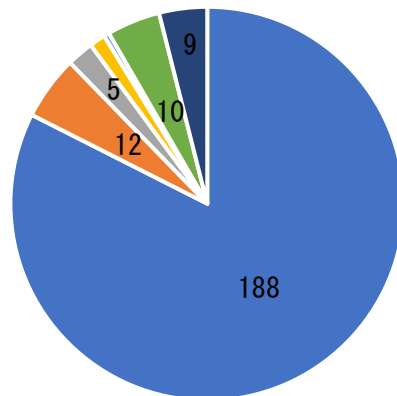
・開催を初めて知ったところ（年代別）



(単位：件)

● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

・ 京都大学アカデミックデイにこれまで何回参加したことがありますか？

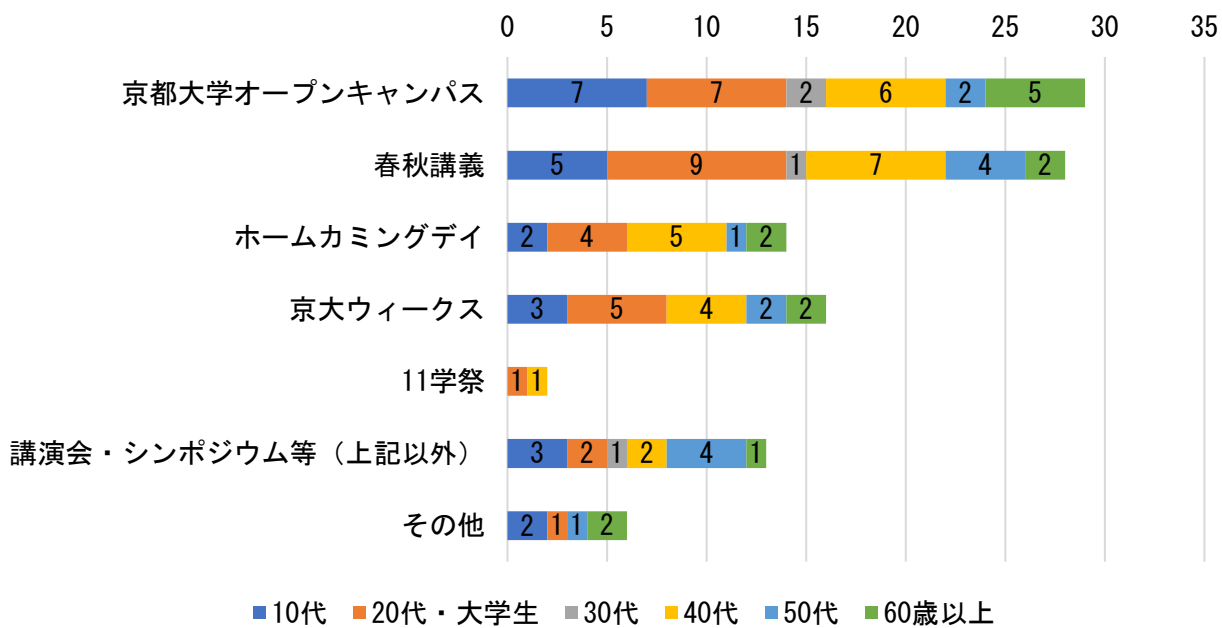


■ 初めて ■ 1回 ■ 2回 ■ 3回 (3人) ■ 5回 (1人) ■ その他 ■ 無回答

(単位：人)

※「その他」は何回目の参加か不明、研究者側として参加した人たちをカウント。

・ 本イベントの他に、参加したことのある京都大学のイベントは何ですか？ (複数回答可)

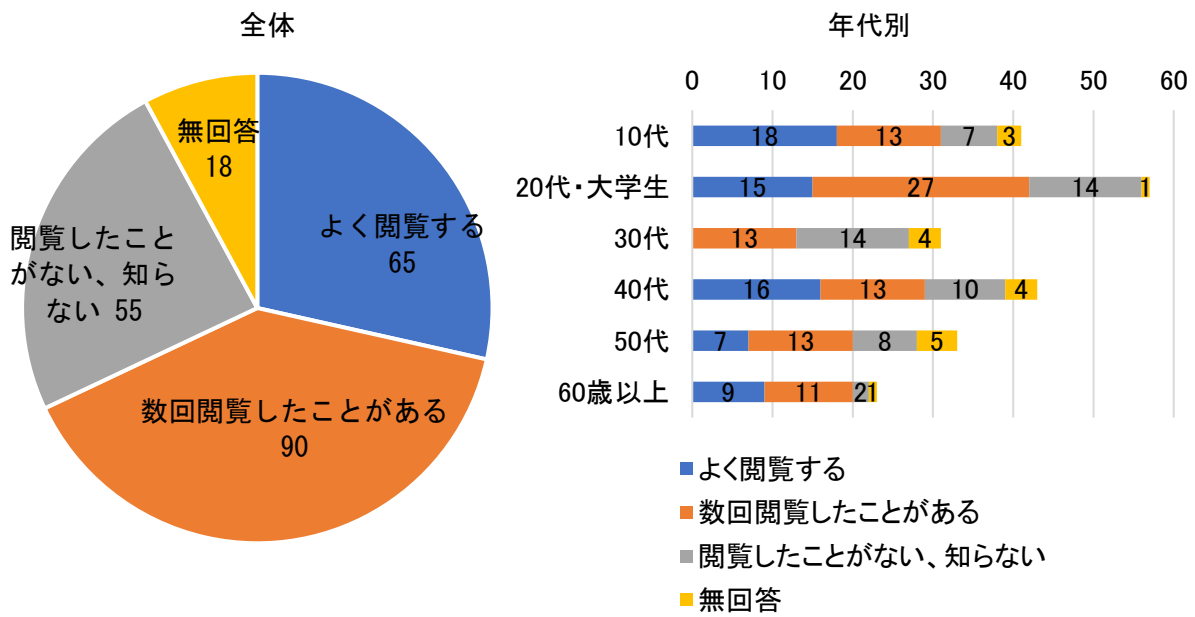


■ 10代 ■ 20代・大学生 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60歳以上

(単位：人)

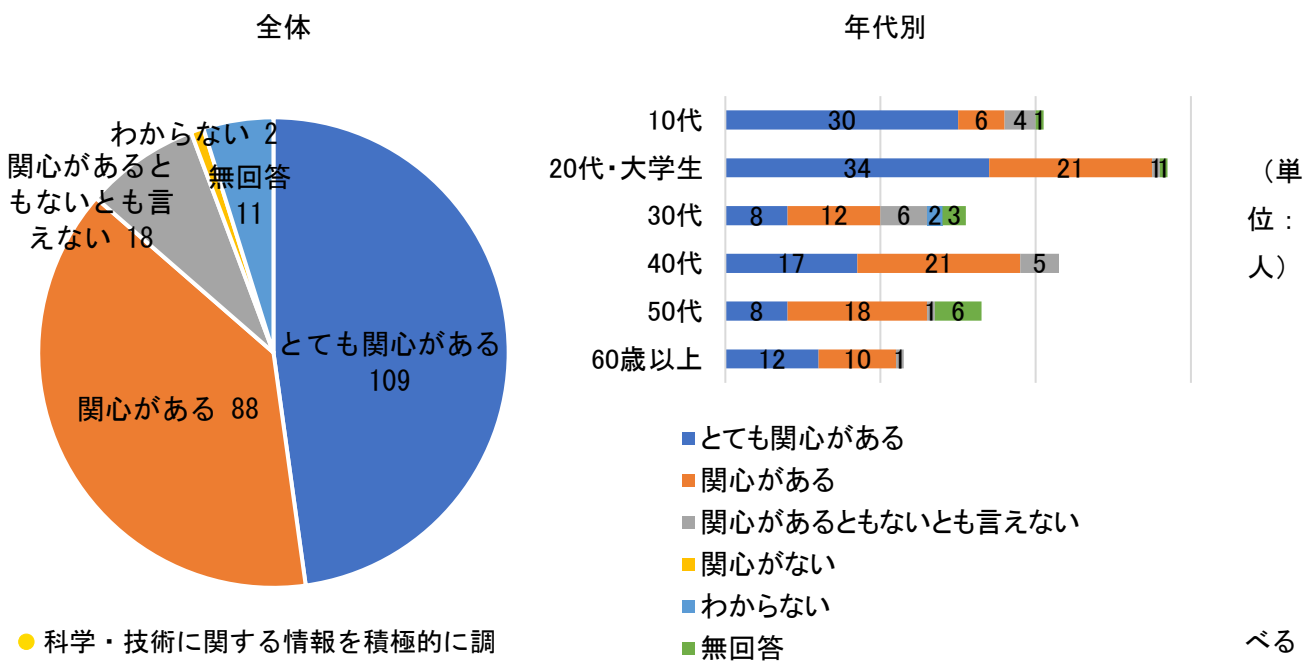
※「講演会・シンポジウム等 (上記以外)」及び「その他」は、アンケート設問「問 10. 京都大学のその他のイベントへの参加 (回答任意・複数回答可)」で「⑥その他」と回答されたものより集計。いずれの回答もなかったのは 153 名。

● 京都大学のホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？



(単位：人)

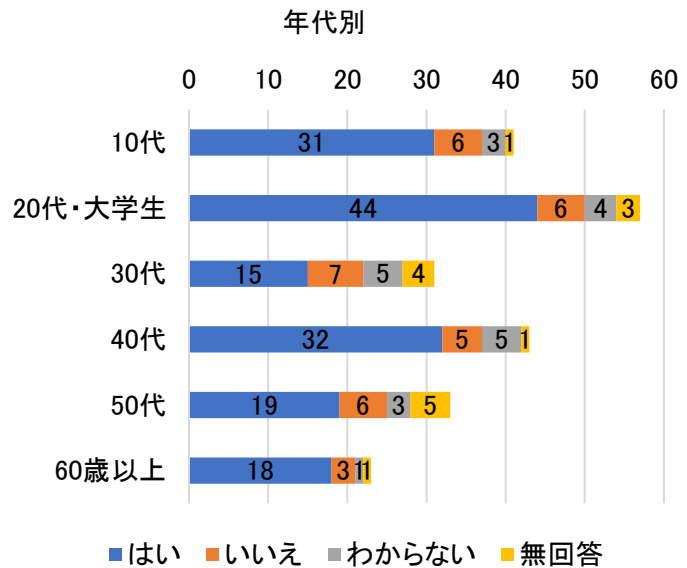
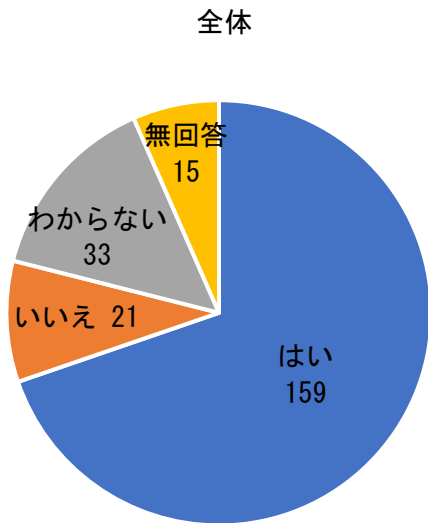
● 科学・技術に関心がありますか？



(単位：人)

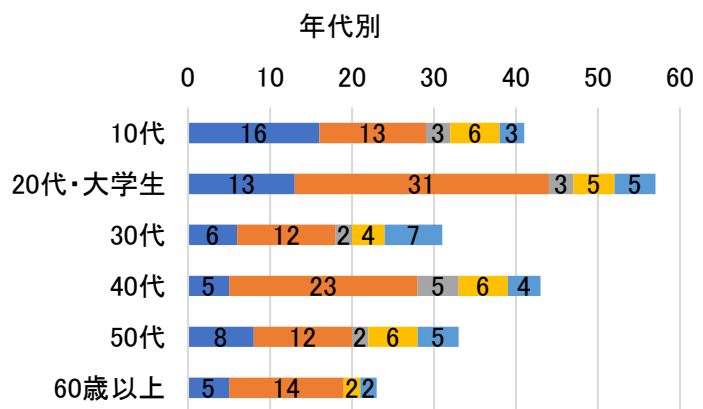
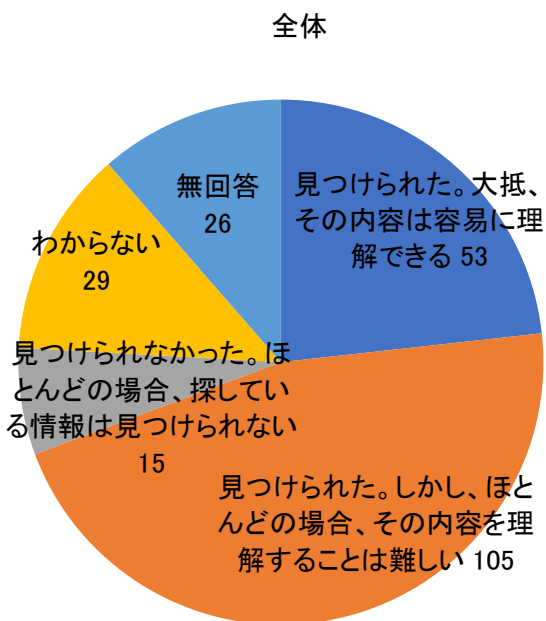
● 科学・技術に関する情報を積極的に調べますか？

べる



(単位：人)

● 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？

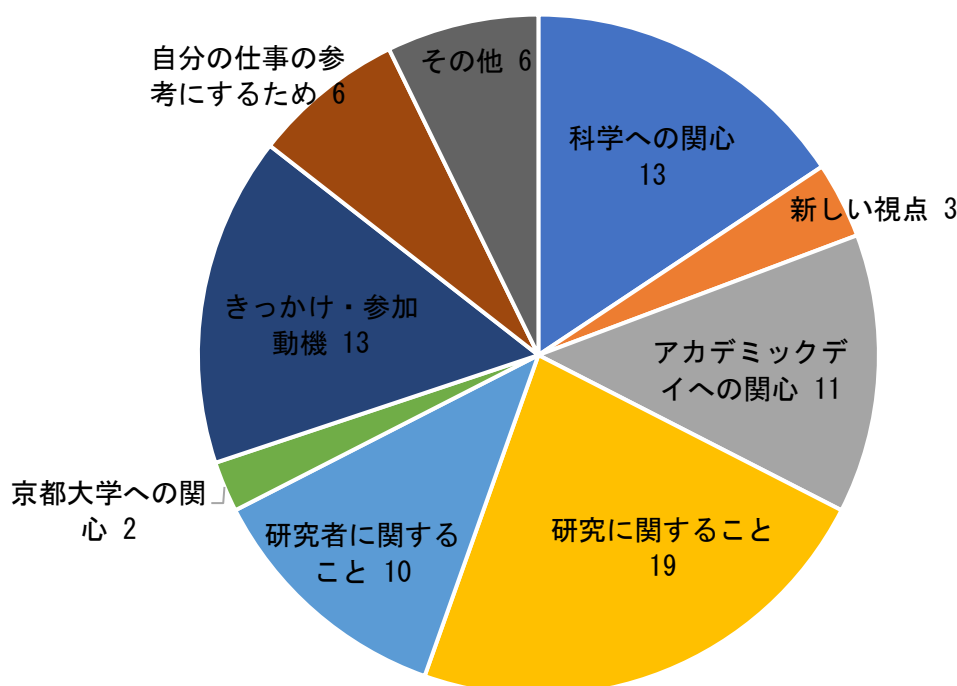


- 見つけれられた。大抵、その内容は容易に理解できる。
- 見つけれられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。
- 見つけれなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけれない。
- わからない
- 無回答

(単位：人)

- アカデミックデイ 2020 にリスナーとして参加するにあたって、質問・意気込み等

(事前アンケート問7「その他」に記載された内容より)



(単位：件)

※ 無回答の114名については、上記の図からは除外。

・ 主な意見：対話参加者

〈科学への関心 (13件)〉

- 自分の中の興味を表す言葉を得るため。(東京都 40代、会社員・自営)
- 興味があるため (東京都 40代、その他：社会人)
- 様々な分野について学ぶことに興味があるから参加しようと思いました。(京都市 20代、無職・アルバイト)
- 先端の科学に興味がある (大阪府 40代、会社員・自営)
- どれも興味深く、聞いてみたいと思い、3つとも聴講を希望させていただきました。よろしくお願いします。
(東京都 50代、その他：社会人)
- 日頃の自分と関係のない内容なので面白そうだったのだ (京都市 60代、教員・研究教育関連)
- 好きなものの事や研究の話している人、話がすきです。そして新しいことを知りたい気持ちがあります。地下鉄の中吊り広告を見て、これだ！！と思いました。(京都市 30代、教員・研究教育関連)
- コロナ禍の中知的好奇心及び刺激を求めて。(京都市 50代、京大以外の大学職員)
- 色々なことを知りたいから (京都府 10代、高校生)
- 後期高齢者ではあるが、まだまだ知的好奇心がいっぱいです。(神奈川県 70歳以上、その他：研究所主宰)
- 育児中で外出できないため、自宅から参加できる学術的なイベントということで興味を持ちました。とても期待しております。(東京都 30代、会社員・自営)
- テーマへの関心、研究者の思考、異分野間の議論への興味 (京都市 50代、会社員・自営)



〈新しい視点（3件）〉

- 自分の進路に悩んでいて、色々な視野を広げたいと思ったから。（三重県 10 代、高校生）
- 見識を広げたいと思ったから参加しようと思いました。（兵庫県 30 代、会社員・自営）
- 今回の企画をきっかけに、自分自身の知見を広げたいと感じたため。（熊本県 20 代、京大以外の大学の学生）

〈アカデミックデイへの関心（11件）〉

- 以前より参加したいと考えていたが、今回、web 開催なので、参加がなかった。（大阪府 50 代、会社員・自営）
- 毎年参加させていただき、最新のご研究のこと、研究への取り組み方に刺激を受けています。オンラインでお会いしたかったのですが、オンラインも楽しみにしています。よろしくお願いします。（大阪府 50 代、公務員・団体職員）
- 京大アカデミックデイというイベントがあることを知り、大学のアウトリーチ活動に対して、実際に市民がどの様に受け止められているかに興味があり、今回申し込みさせていただきました。（京都市 50 代、京大教員・研究者）
- ずっと興味はありましたが、オンライン開催で気軽にいけるようになったため。（京都市 40 代、会社員・自営）
- 以前から関心があったが、なかなか行けなかった。（大阪府 60 代、教員・研究教育関連）
- オンライン講義だったので遠方でも参加できるから。（愛知県 30 代、公務員・団体職員）
- 前回参加して面白かったから。（滋賀県 20 代、京大以外の大学の学生）
- アカデミックデイには何度か行かせて頂いたことがあり、楽しみにしているイベントです。この企画については言語学や文化人類学などに関心があるため希望しました。（京都市 40 代、会社員・自営）
- 昨年度も参加しました。異なる領域を横断しつつ自由に質問・対話できたのが他に例がなく、大変良かったです。今年は発表者も少なく自由に対話できず残念ですが、パンデミックの中でも中止ではなくオンライン開催していただきありがとうございます。『ない』世界というコンセプトが面白く、さすがだなと思いましたが、言語間での翻訳や通訳をするときも、(明治期に「自然」「芸術」など多くの新しい日本語が作られましたが)ぴったり一致する概念はないのに仮に言葉同士を対応させているわけです。そのような中で、あたかも AI があれば言葉の壁が消えるというような言説に強い違和感を覚えます。『ない』世界との翻訳や通訳はどのように可能なのでしょうか。（京都市 50 代、教員・研究教育関連）
- 主催者からの紹介を受けて。また、これまでと異なる「アカデミックデイ」の開催スタイルに興味があったから。（京都府 50 代、京大以外の大学職員）
- 研究のお話をうかがえる良い企画だと思ったから。（京都市 40 代、京大職員）

〈研究に関すること（19件）〉

興味関心

- 「混ぜる」この言葉にとっても興味を持ちました。「0」と「1」の世界では表せない「ない」世界とは？遺伝子についての考え方も興味があります。（東京都 60 代、会社員・自営）
- 興味あるテーマのため（東京都 50 代、会社員・自営）
- 興味深いお題だったから。（京都市 60 代、会社員・自営）
- タイトルが面白そうだったから。（京都府 20 代、京大以外の大学の学生）

- 不思議なタイトルだったので。(京都市 50 代、京大職員)
- 異なる性質の複数の金属が混ぜ合わせられることでそのどれよりも優れた性質を持った、いわば 1+1>2 ともいえる世界に興味を持っていたため、この企画に参加させていただくことにしました。(広島県 10 代、高校生)
- 金属めっきに関わる仕事に従事しています。様々な金属元素を混合した時の挙動に興味があり、参考になればと楽しみにしています。(大阪府 50 代、会社員・自営)
- 国際関係の仕事に従事しており、言語や文化理解事業に従事しております。私自身の世界中の「ない」ことの実態の理解が深いとは言えないところがあり、そのような世界観の理解を深化できれば幸甚にございます。(和歌山県 30 代、公務員・団体職員)
- 言語学に興味があるので(大阪府 40 代、教員・研究教育関連)
- 言語学自体が好きなので、興味を持ちました。(滋賀県 10 代、中学生)
- 言語学に興味があるので参加したいと思いました。(京都府 10 代、高校生)
- 「ない」を理解と言えば不可知論が浮かんだが数詞のない世界も確かに母語が日本語の人間には理解しがたく大変面白そうだったため(京都市 30 代、その他：通信制専門学生)
- 数を数えないということが、どういう感覚なのか、純粋に興味があります。②違う常識を持った人と、新しい人間関係を築く上でのヒントになればと思っています。(京都市 40 代、会社員・自営)
- 再生医療系の話だったため興味を持ちました。(沖縄県 20 代、京大以外の大学の学生)
- 医学研究の一端を知りたかった。(愛知県 10 代、高校生)
- 生殖細胞に興味があるから。(滋賀県 20 代、京大以外の大学の学生)
- 知人のお子さんと小児がんサバイバーが数名いるため、お話をうかがってみようと思いました。(京都府 50 代、公務員・団体職員)

先生への質問

- 利点があるので混ぜると思うのですが、逆に副作用みたいに予期せぬ欠点が生まれることはありますか。(兵庫県 10 代、高校生)
- 環境汚染を起こさない金属、合金はありますか。金、銀の鉱山で働いておられるかたは大変危険です。なぜ金など禁止しないのですか。精子の未来はどうなるのか。精子を育てる方法がありますか。何故ピルを禁止しないのか。(京都市 60 代、その他：占い師)
- 患者の精子幹細胞はがん発症傾向が高いと思われませんが、倫理的に将来の発症を抑制するための対策はとれるのでしょうか？とれるのであれば現在の状況を知りたいと思います。(兵庫県 10 代、高校生)

〈研究者に関すること (10 件)〉

興味関心

- 研究者の考え方を学びたい。(愛知県 60 代、無職・アルバイト)
- 研究者の仕事に興味があったので。(愛知県 10 代、中学生)
- 計画コンセプト、テーマ、講師に興味があります(神奈川県 70 歳以上、会社員・自営)
- 今、私は大学 2 年生なので研究をどのようにしているのかを知りたいと思った。(茨城県 20 代、京大以外の大学の学生)
- 普段研究者の人や他の人がどのような考え方をしているのか興味があったため参加しました。(奈良県 10 代、高校生)
- 友人や周囲に研究者を目指す者がおり、本イベントの「研究活動の成果だけでなく、研究をする人自身のこと



や研究のプロセスなどを伝える」という点に興味を持ったため。(東京都 20 代、会社員・自営)

- 京都大学の教授がどのような研究をどのように研究していらっしゃるのか、興味を抱いたから。(大阪府 10 代、高校生)

先生への質問

- 京大院卒者で、好奇心を満たしたく参加した。研究者として、何を原動力として研究しているのを知りたい
(イグノーベル賞受賞の先生の「何の役にも立たないが、不思議に思うことが大切。」という言葉が胸に響いた)。(徳島県 20 代、その他：社会人)
- 研究者になって大変なこと、良かったこと、研究者を目指す学生になにか一言あればおしえていただきたいです。(愛知県 10 代、京大以外の大学の学生)
- 僕は今高専の 4 年生でこれから卒業研究が始まります。その良い進め方等を学ぼうと思い参加しました。自分の研究テーマで上手くいかない時とありますか？そんな時はどう対処しますか？(新潟県 10 代、高等専門学校生)

〈京都大学への関心 (2 件)〉

- 京都大学に興味あります！(ロサンゼルス 10 代、高校生)
- 京都大学の講座に興味があったので。(長野県 40 代、その他：正職員)

〈きっかけ・参加動機 (13 件)〉

広報媒体経由

- ネットでの紹介を見て(東京都 30 代、会社員・自営)
- 京都市バスで見かけたから。(大阪府 20 代、会社員・自営)
- 京都旅行中に電車で広告をみた(千葉県 30 代、主婦・主夫)
- 電車の広告(京都市 20 代、京大以外の大学の学生)
- きっかけ・ポスターを見て(京都市 30 代、京大職員)
- Twitter の広告で見かけ、内容が面白そうだったので参加希望した(北海道 20 代、京大以外の大学の学生)
- Twitter のプロモーションで本企画を知りました。医療系の学部所属のため 5 日のテーマに興味を持ち、申し込みました。(大阪府 20 代、京大以外の大学の学生)
- 地下鉄の中吊りをみて、興味があったため。(大阪府 40 代、公務員・団体職員)
- Facebook でイベントを知り、応募しました。学生のころに参加した京大変人講座が面白く刺激になったため、今回も京都大学様から刺激をいただこうと思い、応募いたしました。(東京都 20 代、会社員・自営)
- 京大人文科学研究センターのオンライン講義が面白かったから(岡山県 30 代、会社員・自営)

人からの紹介経由

- お父さんから聞いて(京都府 10 代、小学生)
- 学校の先生から勧められたため(三重県 10 代、高校生)
- 大学関係者の方から教えていただいて興味を持ちました。(滋賀県 10 代、高校生)

〈自分の仕事の参考にするため (6 件)〉

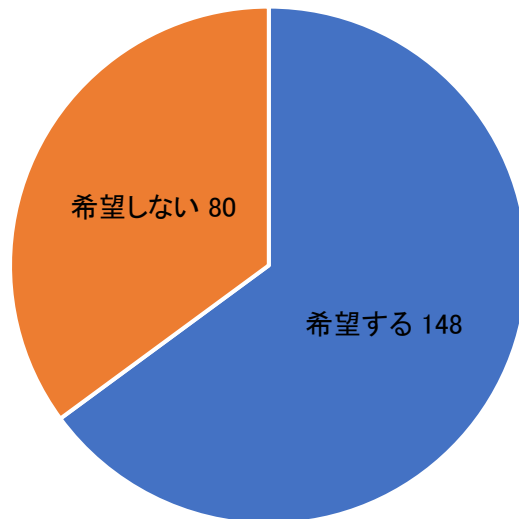
- 授業で生徒に話をすることを考えて(大阪府 50 代、教員・研究教育関連)

- 後学のため（京都市 30 代、京大教員・研究者）
- 同じようなイベントを本学でもできないか検討するため（愛知県 40 代、京大以外の大学職員）
- 今後のオンラインイベントの参考とさせていただきたいと思ったため（京都府 40 代、京大職員）
- URA の方々の活躍、眩しい思いで拝見しております。この時代にこういった研究支援・社会貢献に接続できるのか、その可能性を知りたく参加します。（兵庫県 30 代、京大以外の大学職員）
- 学際融合センターの動きを勉強させていただいています。（東京都 50 代、公務員・団体職員）

<その他（6 件）>

- 難しそうな話だけど頑張って理解したい。（大阪府 10 代、高校生）
- 専門ではない人もわかりやすいように基礎知識等を混じえた導入を期待しています。（愛知県 20 代、京大以外の大学の学生）
- 研究者と対話参加者のやりとりを楽しみにしています！（京都市 40 代、京大教員・研究者）

- 今後、アカデミックデイ事務局からのメール配信を希望しますか？

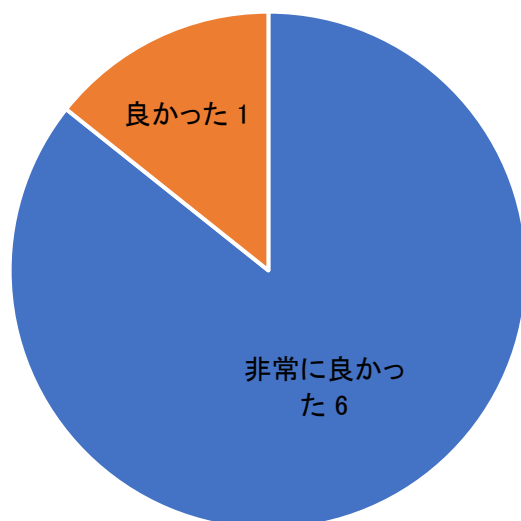


（単位：人）

■事後アンケートの結果

[対話参加者への事後アンケート]

- 京都大学アカデミックデイ全体の感想（3日間合算）



(単位：人)

- 上記を選んだ理由：対話参加者

- 普段お話しする機会がない、大学の先生に、素朴な疑問にもお答え頂いたから。(12/3)
- 普段の生活で全然接点のなかったことを知れて、とにかく面白かったです。(12/3)
- 長時間先生につっこんだ質問が出来た。研究室の日常が見えた。浜田君（研究者の後輩）の話も聞けて、研究の今と未来が見えた。原子が見れた！（12/3）
- 言語学に興味があったのでいろいろと今までになかった発見ができて楽しかったです。(12/4)
- 日頃にはない視点を得られた。(12/4)
- 私が興味あった、先生の研究内容の裏に隠れた情熱やスピリッツを感じることができた。(12/5)
- 考えた事もなかった驚くべき生命の不思議を知ることが出来た。先生の人となりめっちゃ好きだと知れた。(12/5)

- 研究者との対話の中で、研究内容や研究者自身について、気づいたこと、発見したこと、印象に残ったこととは何ですか？

・主な意見

- 先生がすごくお若い！（12/3）
- 主に延長戦での話になりますが、自然の法則が色々な場面に転用して使えるんじゃないか、という可能性の話が一番面白かったです。もっと話したかったくらいでした。今思ったんですが、3人の対話者の関心がこの対話の場でどう「きれいに混ざるか」というのを、エントロピー増大の法則を元にして実験してみたかったです。できるのかわかりませんが（12/3）
- 化学は本当に地道だわ……。試料作るのに1週間とか。結局試料を作るのが上手な研究室の研究が進む、という点で職人がそこに居る世界ですね（昔、実験のために実験器具を作るガラス工芸細工がめっちゃ発展した、っていう中世の錬金術の世界のはなしを思い出した）（12/3）

- 「1、2、3、たくさん」と言う考え方がとても身近にあるということに驚きました。あと、譲渡可能なモノかどうかで分ける言語があるということを知って聞いて日本語や英語と違う特色を持った言語に対する興味が深まりました。(12/4)
- 猛進することの重要性(12/4)
- 専門用語が多く出てきたので、全体を通じて理解できない部分が少なからずあったかもしれない。個人的には、ためになる話というのは少し難しいくらいの方がちょうどよく、後で自分で調べてみるくらいが良いのではないかと考えている（異論はもちろんあるだろう）。(12/5)
- 今にもノーベル賞とりそうな凄い先生でありながら、お話しの途中途中に出てこられる先生の人間的な魅力が素晴らしかった。研究の内容の他に、研究者として生きるとはどういうことか、ということが非常に興味深かった。研究者とお話する醍醐味ってこういうこと。またお話ししたい。(12/5)

● ファシリテーター（司会）の進行はいかがでしたか？

- 参加者さんからの質問は、先生がお選びになっても良いのかな？と思いました。質問そのものが専門的過ぎて、素人にはわからなかったです。(12/3)
- すごく丁寧に進めていただいて、安心できました。ありがとうございました。強いていうなら、ファシリテーターが「ここを見せたい」「この話をさせたい」というところにもっと引っ張ったりしてもいいんじゃないかなとは思っています。まあそれはそもそもの場の目的にもよりますけど。(12/3)
- 介入量、介入内容共に良かったと思います。質問を良いタイミングで良き量でひろって (12/3)
- 話題を振ってくださったりとても話しやすかったです。ありがとうございました。(12/4)
- 素晴らしかった。事前打ち合わせの時間があって良かった (12/4)
- ファシリというより対話者の一人のような入り方、これもまた良かったと思います！(12/5)

● アカデミックデイ 2020 のよかった点、改善点について教えてください。

- お誘い頂くまで知らなかったのので、広報を幅広く行って頂きたいです。(12/3)
- Q&A を見る限りでは、参加者の方の関心にだいぶ幅があるなとも感じました。大きくは科学ファンで「専門的なことを聞きたい」という方と、「全然わからへんけど面白そう」という方がいたのかなと。両方にしっかり楽しんでもらおうと思うと、準備や設定に工夫がいりそうだなとも感じました。やりがいがありそうですけど(12/3)
- ちゃぶ台深掘りはよかったです。じっくり聞けた！(12/3)
- 普段話すことのできない研究員の方と話せる場所、直接研究内容が聞けるのがよかったです。もう少し深いお話ししたかったのでもう少し長ければよかったです。(12/4)
- 視聴者が積極的でよかった。どんな結論に向かって、今どこを話しているのが少しわかりにくかった。対話の方向性を事前に把握できないのでなかなか難しいが、市民がより研究の世界を理解するためにも、本日の対話の内容を学問・研究という観点から振り返る・整理する時間（「〇〇という質問は〇〇という意味がある」「これまでに〇〇に関しては〇〇や〇〇という観点から研究されてきた。本日の対話は〇〇に当たり、〇〇という意義がある。一方で、現時点では〇〇という課題がある」「本日お話できなかったが、〇〇という視点も指摘されている」など）を最後に設けていただけると、なおよかった。(12/4)
- 当日参加したかった人たちも拾えたらもっとよかったかも！あと先生の資料後で共有してもらえるとなおいいかと(12/5)



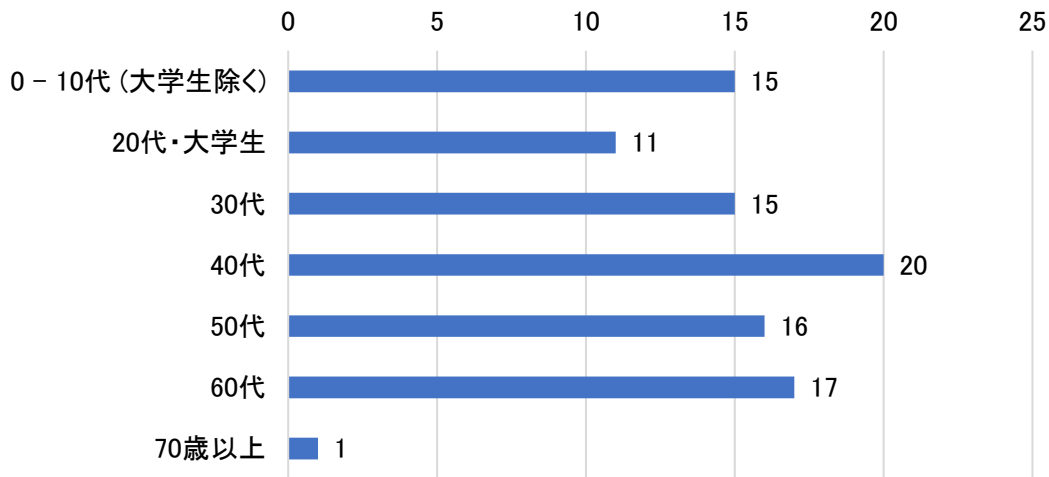
● 今回の Zoom でのオンライン開催で不便に感じられたこと、困ったことがあれば教えてください。

- 大阪在住のため、参加がしやすかったです。(12/3)
- 良かった点：研究室訪問が出来た。長時間ガッツリ話が聞けた。不便は特になかった(12/3)
- 京都市内が少し遠いので現地だったら参加しづらかったかも知れません。その点オンラインで良かったです。しかし対話となるとやはり直接対面の方が話しやすかったかなとも思います。(12/4)
- 参加が容易。ただし Zoom なので、スケジュールに入れていてもすっぽかす可能性大。(12/5)
- やっぱり研究室訪問が良かったですねえ。普段絶対入れないから。オフラインよりも対話者同士の話も気になりました。慣れていってルーティンかすればそのうちもう少し運営を軽減できるかも知れません。同時複数本走るとかもそのうちできるかも？(12/5)

[リスナーへの事後アンケート]

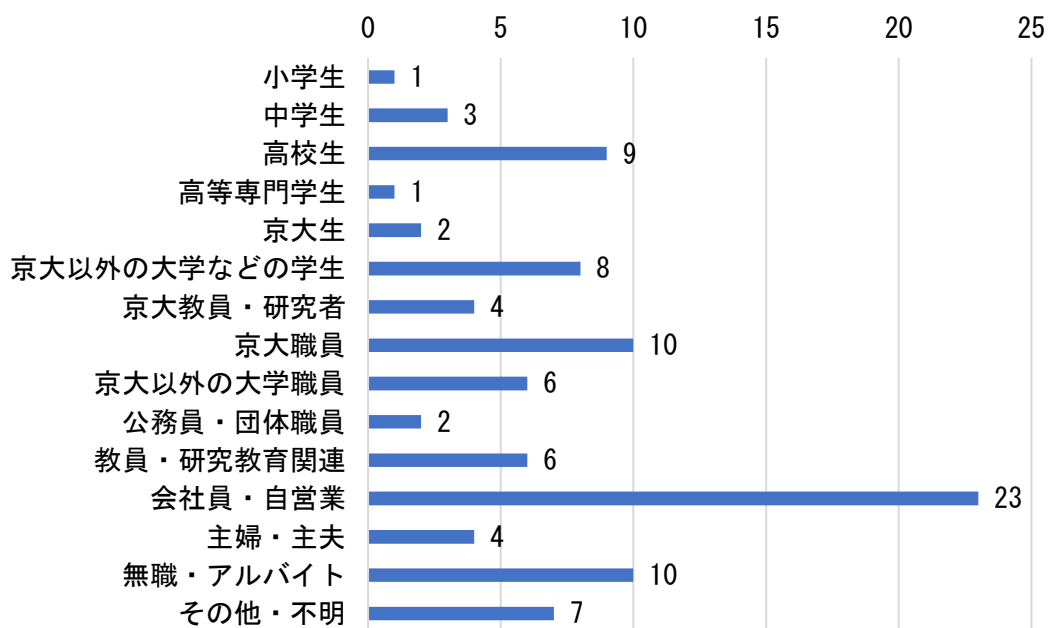
● 回答者はどのような方だったのか？

・年齢層



(単位：人)

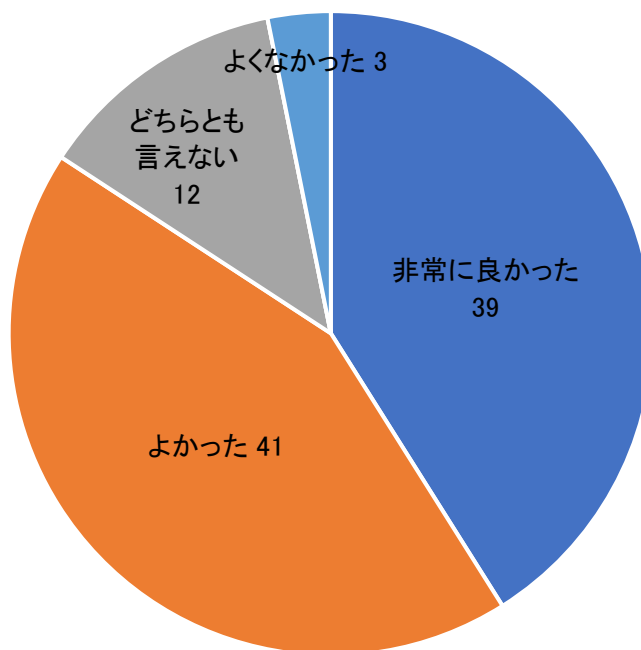
・所属



(単位：人)

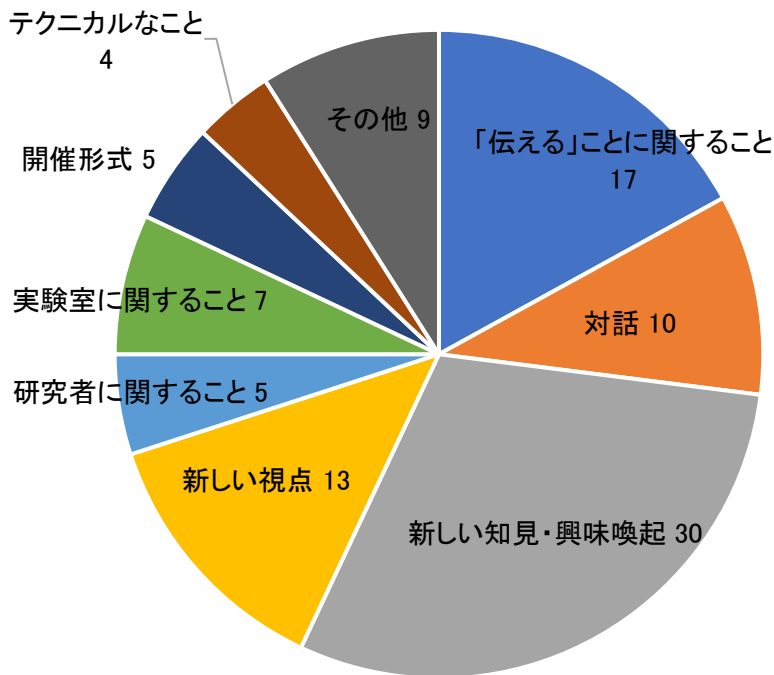
※事後アンケート設問「問2. 職業」で、大学教員・研究者（京都大学以外）と回答された人は「教育・研究教育関連」に変更。「その他・不明」は、「その他」と回答された人を集計。

● 京都大学アカデミックデイ全体の感想（3日間合算）



(単位：人)

● 上記を選んだ理由



(単位：件)

※ 記述無回答の 11 名については、上記の図から除外。

〈「伝える」ことに関すること (17 件)〉

- 最後にもう一度今日のスライドをさらっと見直してまとめてもらう時間があればもっと良かったです。(12/3・主婦・主夫 40 代)
- 目的が定まらない印象が残りました。(12/3・その他 40 代)
- もう少し時間を意識した構成であるとありがたい (12/3・会社員・自営 40 代)
- 丁寧にわかりやすい説明をしていた点 (12/3・会社員・自営 50 代)
- 講師の方のサービス精神のおかげで、難解な専門用語もなんとなく「わかった」ような気分になって、満足でした。受け売りで、だれかに話したくなるような話題でした。(12/3・会社員・自営 50 代)
- とても分かりやすかったのと初めて映像で原子を見ることができ、感動です。(12/3・無職・アルバイト 60 代)
- 座学を踏まえて設備の見学をさせて貰えたため、理解しやすかった。(12/3・会社員・自営 30 代)
- 難しかったがわかりやすく説明していただけてとても面白かった (12/3・会社員・自営 30 代)
- 先生の話がとても分かりやすかったです (12/4・会社員・自営 20 代)
- タイトルと講義内容がずれてると感じたため (12/4・会社員・自営 30 代)
- ない世界とは、「0 (ゼロ)」に対してお聞きしたかったです (12/4・主婦・主夫 60 代)
- 結局 無い世界が何なのか、よくわからなかった (12/4・主婦・主夫 60 代)
- 親話がアチコチに飛んでわかりづらかった。数詞がない言語を使う民族に共通の属性など文化人類学的な研究の説明などが欲しかった (12/4・小学生 10 代)
- 話の展開のスピードが速すぎるかなと思いました (12/4・京大以外の職員 50 代)
- とても興味深いお話でしたが、時間配分の関係で本題が駆け足になってしまったのが少し残念でした。(12/4・公務員・団体職員 20 代)

- ムカデの教えかた八の意味など面白かったです。(12/4・主婦・主夫 60代)

〈対話 (10 件)〉

- 対話参加者との会話や、事前のツイッターがいい意味でくれた表現でよかった。(12/3・京大以外の大学職員 40代)
- 参加者の方々もオーディションでもあったかと思うぐらいに、質問するタイミングや質問内容も良い方達でした。(12/3・主婦・主夫 40代)
- リスナーへのクエスチョンがもう少し多くても良かったかなと思いました (12/3・教員・研究教育関連 50代)
- 研究関係の方ではない人との対話が新鮮だった点。(12/3・会社員・自営 30代)
-
- 対話が成立していたかと言われると疑問だと思ったので、最高評価はつけなかった。(12/4・京大生 10代)
- 質問に対する回答が出ずまに次についてしまったり、忙しなかった (12/4・主婦・主夫 60代)
- 今までにない「対話」の方法が新鮮でした。(12/4・京大以外の大学職員 40代)
- コメンテーターがする質問により、話が深まったから(12/5・会社員・自営 50代)
- 対話者の人たちのおかげで、疑問が解決することもあった。皆さんすごいなと思った。(12/5・会社員・自営 40代)

〈新しい知見・興味喚起 (30 件)〉

- 大学設備を見れて興味がでた (12/3・教員・研究教育関連 50代)
- 今まで全く知らなかった分野に触れることが出来た (12/3・高校生 10代)
- ハイエントロピー合金について知れたから。(12/3・高校生 10代)
- ハイエントロピー合金、という物質を初めて知りました。原子が見えた瞬間、感動しました！本当に。
(12/3・会社員・自営 30代)
- 自分の専門ではない分野の話聞いた点(12/3・会社員・自営 30代)
- 材料工学に関する知識があまりないので、研究の一部を知ることができたから。(12/3・無職・アルバイト 60代)
- 合金というものは金属と金属を混ぜ合わせることで生まれ、それが物理法則に元で行われているということを知ったから。(12/3・高校生 10代)
- 今まで興味はあるけど、触れられなかった科学の話に触れたので。エントロピーの法則という言葉は知っていたのですが、今一理解していなかったのが納得できました。(12/3・無職・アルバイト 60代)
- 大学化学の授業でエントロピーについては学んでいましたが、今回参加させていただくまでは“エントロピーがどのようなものか、ただ知っているだけ”という状態でした。エントロピーを深く考えることや、実際に合金として使われていることを知らなかったのが、とても面白く感じる事ができたためです。(12/3・京大以外の大学などの学生 20代)
- 内容と進め方にゆとりがありながらも、十分な収穫が得られました。(12/3・主婦・主夫 40代)
- 面白かった。(12/3・会社員・自営 40代)
- 面白く興味が沸いた。(12/3・無職・アルバイト 60代)
- 「数詞がない」という事が意外にも身近にあることを知りました。今まで深く考えた事のなかった分野で、新たな発見と学びになり、聴けて本当に良かったと思いました。(12/4・高校生 10代)
- ボリビアがとても懐かしかったのですが、あるけれど方法を持っていないということで、なにを理解するのか

わかりませんでした。(12/4・主婦・主夫 60代)

- 先生の興味分野やお話自体が面白くて、それだけでいいとも思わされるくらい楽しめたので、良かった。

(12/4・京大生 10代)

- 内容が興味深かったから (12/4・会社員・自営 40代)
- 研究内容に興味を沸いた。(12/4・無職・アルバイト 60代)
- 短い時間の間に、色々なことに思いを巡らせられるほど、盛りだくさんの内容をお話しくださって、大変興味深かったため (12/4・会社員・自営 30代)
- 参加が遅れてしまったのですが、興味深い内容でした。一般の人でもふと思いつくような疑問に、研究者が答えてくれるという点が大変良いと思いました。(12/4・京大職員 30代)
- 全く専門外ではあるが、興味を持っているトピックを視聴したため、本で読める内容、知っている内容より新しい情報を得た、という実感がなかったため。(12/4・教員・研究教育関連 30代)
- がん患者の生殖細胞の保存について、詳細やバックグラウンドを知ることができたから。(12/5・京大以外の大学などの学生 20代)
- 専門分野を分かりやすく説明されたので興味が沸いた (12/5・会社員・自営 60代)
- 癌が比較的高確率で治る時代になり、かつ少子化が問題となっている現代においてとてもタイムリーで重要なトピックについて話を聞くことができ、大変勉強になりました。(12/5・高校生 10代)
- 篠原先生の研究の歴史がよく理解でき、生殖細胞研究の流れが理解できた (12/5・教員・研究教育関連 70歳以上)
- 先生の研究に非常に興味をもてた。(12/5・京大以外の大学などの学生)
- スライドがわかりやすく、お話が大変面白くて興味が惹かれました。(12/5・無職・アルバイト 40代)
- 研究者という仕事についてよく分かった (12/5・中学生 10代)
- ユニークなテーマでした。(12/5・無職・アルバイト 60代)
- 予測以上に議論が盛り上がり、聞いていて楽しかったため。(12/5・その他 50代)

〈新しい視点 (13件)〉

- いつもと全く違った角度から物事を見ることが出来た。(12/3・その他 50代)
- 対話参加者の方々や他のリスナーの方々からの質問によって、自分とは異なる視点や考えさせられる点も見つかったためです。(12/3・京大以外の大学などの学生 20代)
- 数詞がない概念を考えたことがなかったため (12/4・京大職員 40代)
- 普段の生活では思いもよらない命題で有ったこと。(12/4・教員・研究教育関連 60代)
- 普段の生活で考えないことを考えられた。(12/4・その他 40代)
- 日頃考えつかない疑問や世界に触れることができた(12/4・高校生 10代)
- 普段考えもしない話題に触れることができて、大変興味深かったです。(12/4・京大以外の大学などの学生 20代)
- 自分にはなかった考え方に触れられた(12/4・京大以外の大学などの学生 20代)
- 自分の中の常識を問い直すことができ、視点が増えた (12/4・会社員・自営 40代)
- 参加前は、数詞がないってどういうこと？そんなの可能？と思っていたが、先生のお話を聞いて、意外に自分も「1、2、たくさん」という認識をしているということに気づいたから。(12/4・高校生 10代)
- 着眼点が新鮮でした。(12/4・その他 40代)
- 西本先生や参加者の方、大西先生それぞれの着眼点の面白い箇所などに思わず声を出して笑ってしまう場面も

ありました。(12/4・京大以外の大学などの学生 20 代)

- 言語文化についてはあまり知識がなかったのですが、今後は文化をみる新たな視点を与えられたような感あり
ました。(12/4・会社員・自営 50 代)

〈研究者に関すること (5 件)〉

- 西本先生の思考のスピード感、着想のユニークさと自由さに 惹かれました(12/4・会社員・自営 50 代)
- 先生の独走っぷりがすごかった。(12/4・公務員・団体職員 30 代)
- 研究者がもつ日常の枠を超える発想や雰囲気を感じられたので。(12/4・教員・研究教育関連 50 代)
- 話が分かりやすく、かつ先生の謙虚さと情熱が感じられたため。(12/5・京大職員 60 代)
- 先生の人柄や研究者としての心も非常に共感を得たし、このような研究者を京大は大事にしてほしい。
(12/5・京大教員・研究者 30 代)

〈実験室に関すること (7 件)〉

- 実際の研究現場を見ることができたため。(12/3・京大職員 60 代)
- 研究室の中を見せてもらったのも、とても興味深かったです。お話の内容も、実際見せていただいたものも、
とても楽しかったです！(12/3・会社員・自営 30 代)
- 実験室の様子が見れたことは、オンラインならではなのでとてもよかったです。(12/3・京大教員・研究者 30
代)
- 研究室の貴重なものが見れました。(12/3・京大職員 30 代)
- 電頭でリアルタイムで原子の配列を見せて頂けて嬉しかったです。(12/3・教員・研究教育関連 50 代)
- 研究室の色々な機械もみれて面白かった (12/3・中学生 10 代)
- 原子を見ることが出来た。(12/3・会社員・自営 40 代)
- < 開催形式 (5 件) >
- 時間が長いのでじっくり先生の話がきけた (12/3・会社員・自営 40 代)
- 気になったことをその場で質問でき、答えてもらえたから。(12/3・その他 10 代)
- リアルタイムに皆でコンテンツを作り上げている感じが良かった。(12/4・30 代)
- リスナーも投票で参加でき、双方のやり取りができたこと (12/4・京大職員 50 代)
- オンライン開催で家にいながら気軽に参加できるのも良かったです。(12/4・京大職員 40 代)

〈テクニカルなこと (4 件)〉

- 帰宅途中の視聴で、途中途切れてしまった部分もあったため、全体の評価はできない (12/3・会社員・自営
40 代)
- ネット回線がよく切れたので (12/4・無職・アルバイト 60 代)
- 画面が見づらかった (12/4・京大教員・研究者 40 代)
- 話はとても興味深いものでしたが、少しパワーポイントが見にくかったです。(12/4・中学生 10 代)

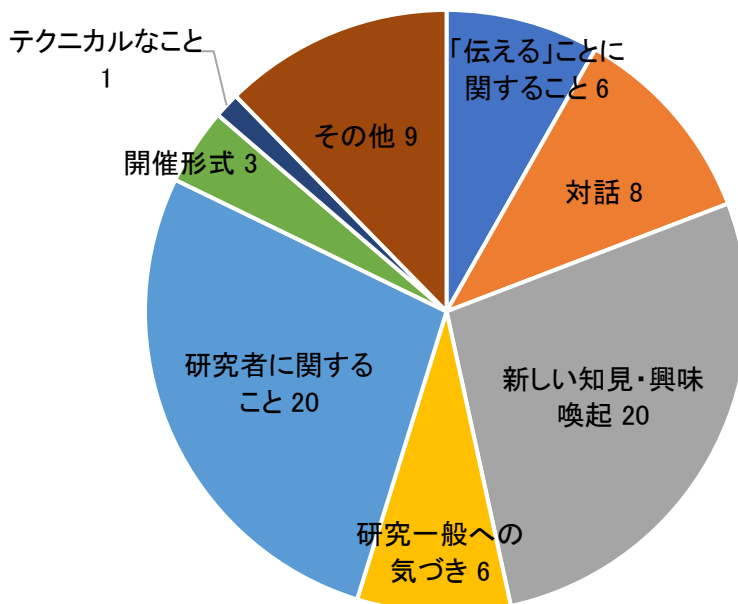
〈その他 (9 件)〉

- 普段 URA の方々が接している先生の素顔を見られた気がします。事務的な補佐だけでなく、研究者の生き甲斐
としての研究に、私はどのように寄り添えるだろうかと考えさせられました。(12/4・京大以外の大学職員 30
代)



- ファシリテーターの方がよかった (12/4・会社員・自営 40代)
- いい意味で混沌。(12/4・京大職員 50代)
- 西本先生と同じようなことを考えていたことがあったためです。(12/4・京大以外の大学などの学生 20代)
- 研究者のお話を直接聞ける機会は普段ないため。(12/4・京大職員 40代)
- コロナ禍ではこうした学術的な学びに触れることがなかったのでとても貴重な時間に思いました。(12/4・京大以外の大学などの学生 20代)
- 価値のある講演を無料で公開してくれている。昨日と本日 2日間参加させてもらったが、両方とも、終了時刻が近づくとつれて参加者の一体感がまし、感動的な展開になり良かった。(12/5・会社員・自営 40代)
- 後半は非常に納得できる、研究者としてこちらに伝えたかったことなので、よかった。事前にスライド提供しておくというのもよかった。前半は専門用語多すぎなので一部の詳しい人と異分野セミナー聞きなれている人ではないとしんどいかも。 (12/5・京大教員・研究者 30代)
- 先生、ファシリテーター、対話参加者全てが完璧でした。(12/5・京大職員 30代)

- 研究者と対話参加者の対話を視聴して、研究内容や研究者自身について気づいたこと、発見したこと、印象に残ったことは何ですか？



(単位：件)

※ 無回答の 28 名については、上記の図からは除外。

〈「伝える」ことに関すること (6 件)〉

- 研究者の経歴は研究者同士は重んじるのかもしれませんが、一般人からしたらどうでもいいので、経歴を話す時間にもっと今日の研究者に親しみを持てるような話をしてくれた方がよかったです。(12/3・主婦・主夫 40代)
- 事前に内容を詰めてはいかがでしょう。(12/3・その他 40代)
- 新津先生の説明は大変わかりやすく、特に研究室からの中継で電顕を見せて下さったのはとても面白かったです。喋ることでノイズが入ることも初めて知りました。(12/3・教員・研究教育関連 50代)
- 研究の一コマを実際に見せていただいたこと丁寧に質問に答えていたこと(12/3・無職・アルバイト 60代)

- スライドの情報量がちょっと多すぎるかな。(12/4・京大以外の大学職員 50 代)
- 専門家向けの複雑で難解な話にならなかった事 (12/5・会社員・自営 60 代)

〈対話 (8 件)〉

- 対話者、はあまり機能していなかったように感じました。専門家と素人の中間、というコンセプトだったかと思いましたがどこか中途半端な印象でした。(12/3・教員・研究教育関連 50 代)
- 対話は専門家同士(異なる分野含め)がいいです。(12/4・会社員・自営 20 代)
- 研究者だけでなく参加者の声・話も聞けるのは視野が広がってとても楽しかった (12/3・会社員・自営 40 代)
- 対話者の素朴な質問や反応から、同じ分野の研究者どうしでは暗黙に理解しあっている常識は、私たち凡人にはとても新鮮な情報であることを再認識できた。(12/3・会社員・自営 50 代)
- リスナーとして 頭のなかで問いかけつづけることも 対話である (12/4・会社員・自営 50 代)
- 対話が雑談にならずに常に冷静な語り口をキープされていたこと。短いコメントにも光る鋭い回答。(12/4・教員・研究教育関連 50 代)
- 9 割がた研究者の先生が一方的に話をされていて、いまひとつ「対話」が成立してなかったような。(12/5・京大以外の大学職員 50 代)
- 参加者の発言が多すぎて、先生の発表が中断されてしまっていた (12/5・教員・研究教育関連 70 歳以上)

〈新しい知見・興味喚起 (20 件)〉

- エントロピーの増大 が悪いことばかりでない ということは非常に新鮮でした。(12/3・会社員・自営 50 代)
- この研究が何に発展していくのかという方向性を考えられないのかと思いました。(12/3・無職・アルバイト 60 代)
- このテーマの結論はどこにあるのか 永遠なのか (12/3・教員・研究教育関連 50 代)
- 化学、物理の分野の奥の深さ (12/3・高校生 10 代)
- 観察がすごく泥臭い仕事によって成っていることに驚きました。化学は結構地道ですね。そのなかでハイエントロピー合金という全く新しい発見が日々起きているのかと思うとワクワクします。(12/3・会社員・自営 40 代)
- 数詞がないわけではなく、1、2 は生活する上で必要だが、それ以上になるとたくさんという概念になること。(12/4・京大職員 40 代)
- 抽象的に捉えていた数詞がないということ、具体的にわからせてくれたところがすごい。(12/4・京大職員 50 代)
- 自分の常識が全てでは無いと感じた (12/4・会社員・自営 40 代)
- 想像の外にある異世界を感じることができました。(12/4・京大生 30 代)
- 言語の違いで世界の見方も違う。(12/4・その他 40 代)
- たくさんを表す各言語の取り上げかたは面白かった。先生は特にないと仰っていたが、日本語の八やトルコ語の 40 にも掘り下げれば意味があると思う。(12/4・会社員・自営 30 代)
- 言語そのものに興味がわいた。言語は生活の中で作られ、利用される道具なのだと思認識した。暮らしに合わせて、必要な言葉が変わっていくが共通項もある (12/4・会社員・自営 40 代)
- 例外に切り札があること。一人ぼっちを感じるには他者が必要という図と地思考。(12/4・教員・研究教育関連 50 代)
- 譲渡不可能なものの中に「象徴」が含まれるということに気付きとても納得しました。象徴は誇りや親族名称、



時には命などの全てに応用できますが、そのうちどれを象徴とするかによって重要度合いが変わって、例えば地球の象徴を命と置く人がいたならば、その人にとって地球から譲渡不可能なものは命になるのではないか、と思いました。(12/4・高校生 10代)

- 精子幹細胞が進化をドライブしてきたという話が印象に残りました。(12/5・京大職員 60代)
- 社会問題が絡む最先端の研究が印象深かったです。(12/5・30代)
- 研究へのモチベーションや技術的な部分について、参加者の方々の質問のおかげで理解が深まりました。(12/5・無職・アルバイト 40代)
- 研究、医療現場、患者とその家族の抱える課題が浮き彫りになったように感じました。(12/5・その他 50代)
- 凍結するという選択肢がある 科学には功罪があると思った。(12/4・40代)

〈研究一般への気づき (6件)〉

- 最先端研究が身近なことと結びついていること。(12/3・京大職員 60代)
- 身近にあること、そこに抱く「なぜ」という疑問から最先端の研究が生まれるということ。(12/3・高校生 10代)
- 専門的だと思っていたことも意外と理解できるものなのだなと思いました。(12/3・京大職員 30代)
- 研究は普段の生活の中にある疑問と繋がっていること。(12/3・中学生 10代)
- どんなことでも研究対象になるんだと気づいた。(12/4・京大職員 60代)
- 独自の視点や感性をもつ研究者の言説を直接聞くことは、非常に知的刺激になります。(12/4・会社員・自営 50代)

〈研究者に関すること (20件)〉

- 研究者の方は幼少の頃から身の周りのことに対し興味感じを抱き「なぜ」と問いかけていたんだと思いました。(12/4・京大以外の大学などの学生 20代)
- 発表者の方が幼い頃から言語について興味を持たれていたのが驚きでした (12/4・中学生 10代)
- 数を通じて普段の「当たり前」を問い直すきっかけとされていたのが、とてもよかったです。(12/4・京大以外の大学職員 30代)
- 言葉と嘘の関係性を問うた姿勢が、現代社会において言葉のうちに数詞が占める役割に対する強い関心につながって、数詞のない言語を研究するようになったのかなと感じた (12/4・高校生 10代)
- リアルな研究者というものを見ることができた。(12/4・公務員・団体職員 30代)
- 研究者というのは、その分野に詳しくなるだけじゃなくてより個性や考え方を煮詰めているんだなと改めて感じた (12/4・京大以外の大学などの学生 20代)
- こんなにもおもしろい人が大学にいるということに驚き、わくわくした気持ちになりました。(12/4・高校生 10代)
- 先生がとてもユニークな方でした。(12/4・京大職員 40代)
- とてもユニークな方でした、言葉に対する意識、自分は何者なのか等、あまり疑問に思わないことに対する興味を持ち方など (12/4・主婦・主夫 60代)
- 先生は私たちが常識と呼ぶものに適応しない在り方をされているように思われた。それがうらやましくもあり、京都大学の研究者として憧れる在り方でもあるなと感じられた。(12/4・京大生 10代)
- 西本先生が最後に研究の目的を語りながら胸を熱くされていた姿。(12/4・会社員・自営 40代)
- 先生の純粋で正直な人柄と研究に対する真っ直ぐな姿勢を感じた。最後に昨日より今日の私が好きと仰ったこ

と (12/4・会社員・自営 40代)

- 先生は情熱的で真っ直ぐな感じの方だ (12/4・会社員・自営 40代)
- 最後の先生からのメッセージが素敵でした。ありがとうございました。(12/4・京大職員 40代)
- 人生=研究 と言っても良いような生き方に感銘を受けました (12/4・会社員・自営 30代)
- 西本先生はどこに向かっているのだろう (12/4・京大職員 50代)
- 先生の後ろにあったニュートン別冊だと思われませんが、「無とは何か」という本にとっても興味があり、印象に残っています。(12/4・京大以外の大学などの学生 20代)
- アイデアと情熱というところです (12/5・京大以外の大学などの学生)
- 研究は 100 回挑戦し 1 回成功する 99 回の失敗に耐えられるかどうか という言葉に人生を重ねた。 あたまでではなく アイデアと情熱 という言葉にも。(12/5・会社員・自営 40代)
- 気さくそうだなと感じました (12/5・高校生 10代)

〈開催形式 (3 件)〉

- 時間がもっと長ければ、研究者自身の研究に対する思いが聞けた気がする。(12/3・無職・アルバイト 60代)
- この 3 日間、3 人 3 分野、年齢、個性考えると、とてもバランスよく順番もバランスが良かった。(12/5・京大教員・研究者 30代)

〈テクニカルなこと (1 件)〉

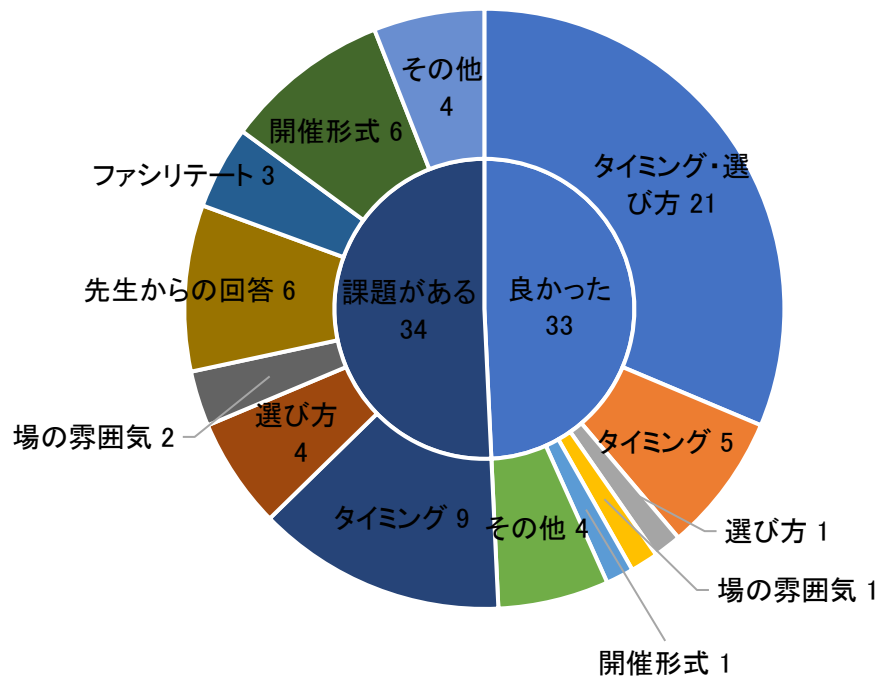
- 声が小さかった、スライドが見づかった (12/4・京大教員・研究者 30代)

〈その他 (9 件)〉

- 研究者として、最後のスライドは共感します。(12/3・京大教員・研究者 30代)
- 先日別の講座で有田焼の柿右衛門という赤の色はナノサイズの酸化鉄であると聞きました。絵の具の話でそれを思い出した。対話者の方の話も面白かったように思う (12/3・会社員・自営 40代)
- もっと聞きたい！時間が足りない！と感じました。(12/3・会社員・自営 30代)
- 頑張ってください。(12/3・会社員・自営 30代)
- 虹は結局何色なのでしょう？(12/4・会社員・自営 30代)
- 面白いご講演を有り難うございました。沢山と聞くといっぱい食べる🍷ことをイメージしている自分にビックリでした。(12/4・主婦・主夫 60代)
- 今後保存の選択肢を周知するために医師だけでなくコメディカルとしても出来ることはないか、考えさせられる講演でした。貴重なお時間を頂きましてありがとうございました。(12/5・京大以外の大学などの学生 20代)
- 純粹に研究し、日々模索して情熱とアイデアを持ち努力を楽しく、楽しくする努力、という気持ちで接している研究者に久しぶりに会えてよかった。このような先生に来年もぜひ市民との対話の場に出てもらいたいと願う。(12/5・京大教員・研究者 30代)

- 企画中の Q&A 機能での質問への回答について、取り上げるタイミング、取り上げる質問の選び方は適切でしたか？良かった点、改善すべき点など感じられたことを教えてください。

(単位：件)



※ 無回答の 28 名については、上記の図からは除外。

・主な意見

〈取り上げるタイミング・選び方どちらも適切だった (21 件)〉

- 一方的な講演とならず、非常に聞きやすかった (12/5・京大以外の大学などの学生 20 代)
- とてもスムーズだったと思います。(12/5・無職・アルバイト 40 代)
- もっと良い方法があったのかもしれないが、不適切とは感じなかったため、良かったと思う。(12/5・会社員・自営・40 代)

〈取り上げるタイミング (14 件)〉

良かった点 (5 件)

- 今回の内容は対話が特に大切な内容であったので、タイミングは非常によかったと思います。(12/4・京大以外の大学などの学生 20 代)
- タイミングを選ぶことは難しかったと思いますが、大変適切だったと思います。(12/4・会社員・自営 30 代)

課題だと感じる点 (9 件)

- PowerPoint による説明中に質疑応答があると、何について質問されているかがわかりやすいですが、説明の流れが途絶えてしまうように感じました。説明の中で話が切り替わるタイミングであったり、一連の説明後に質疑応答の時間を設けたりするのが良いと感じられました。(12/3・京大以外の大学などの学生 20 代)
- 話に区切りがついてからで良かったのではないかと思います。話が途切れてしまうと他の人が気が散ってしまうかもしれない(12/3・高校生 10 代)

- 説明の最中に質問回答入れるのは、適切ではないと感じました。どっか切りのよいところで、まとめてやるべきです。(12/3・会社員・自営 50 代)
- 研究者の説明途中での質問は無い方がいいと思います(12/3・無職・アルバイト 60 代)
- 先生の話さをさぎるのではなく、定期的に元々質疑の時間を取ればいいのにと感じました。(12/4・会社員・自営 20 代)
- 質問が入るなり、いきなり研究者の話が遮られていました、挙手機能などを活用すればいいと感じました。(12/4・京大以外の大学などの学生 20 代)
- タイミングがバラバラで全体のストーリーとの関連性もわかりづらかった(12/4・小学生 10 代)
- タイミングは良い時も悪い時もあると感じました。(12/4・無職・アルバイト 60 代)

〈選び方 (5 件)〉

良かった点 (1 件)

- 回答の取り上げ方は適切と感じました(12/4・無職・アルバイト 60 代)

課題だと感じる点 (4 件)

- テーマからずれてる質問などもあり、すべての Q にいちいちまじめに応える必要ないとおもいます。(12/3・会社員・自営 50 代)
- 視聴者がわからないのでおそらく適切だったと思いますが、Q&A にもあったようなより高度な(突っ込んだ)質問の展開があるとなお良いと思います。(12/4・教員・研究教育関連 50 代)
- 複数の質問が重なり過ぎていたと思う。(12/4・会社員・自営 40 代)
- 質問の項目に偏りがあった(12/4・京大教員・研究者 40 代)

〈場の雰囲気 (3 件)〉

良かった点 (1 件)

- 今回にかぎっては、リスナーからの質問を個別に取り上げなくても、投稿されている画面を眺めているだけで楽しかった。西本さんの発言に誘発されて、問いがどんどん湧いている・・・その臨場感が楽しかった。(12/4・会社員・自営 50 代)

課題だと感じる点 (2 件)

- チャットは極めて書きにくい空気ですね、もっと皆積極的にコメントしてくれたほうが助かります。(12/3・京大教員・研究者 30 代)
- 極めて書き込みにくい空気があった。質問と言ってもいちいち医学では当然の常識の用語を問うていいのか、問えない空気に見える。自戒の念もこめてだが、自分にとっての常識は、専門外や一般には常識ではないので、前半は伝えたいことがいっぱいあったと思うが、30%くらいしか正確には伝わってないと思う。そういうものだと思う。(12/5・京大教員・研究者 30 代)

〈先生からの回答 (6 件)〉

課題だと感じる点 (6 件)

- 質問を投げかけた場合、その回答や傾向にコメントがほしいところ。(12/4・京大以外の大学職員 50 代)
- できれば、質問への回答はしてあげた方がよかったのでは、と思った ex 習得した言語の数 など(12/4・会

社員・自営 40 代)

- 人間と動物の違いについて、質問に答えたが、講演中にその話はなかった。Q&A は、講演中にフィードバックしたほうが良いと思う。(12/4・会社員・自営 40 代)
- ファシリテーターは良かったのですが、あまりはっきりとは答えられない先生だった気はしました。(12/4・京大生 30 代)

〈ファシリテート (3 件)〉

課題だと感じる点 (3 件)

- 先生の話は遮らないで欲しい (12/3・会社員・自営 40 代)
- 視聴者からの意見は意見として完結した文として読み上げるべき。「・・・みたいな、」とかで主観が加わって聞こえると、対話の感じがあやふやになってました。(12/4・京大職員 50 代)
- 残念ながら今回はファシリテーターさんがあんまり機能してなかったように感じました(12/4・会社員・自営 50 代)

〈開催形式 (7 件)〉

良かった点 (1 件)

- 聞いているリスナーの質問にも答えていただけたので非常に良かった。(12/3・高校生 10 代)

課題だと感じる点 (6 件)

- 2 時間程度にすれば、余裕をもって進行できるのではないのでしょうか。(12/3・無職・アルバイト 60 代)
- Q&A の時間が足りない (12/4・無職・アルバイト 60 代)
- 質問タイムがちょっと少なかったですね (12/5・京大以外の大学職員 50 代)
- Q&A 機能は結果がすぐ分かって良かった。全部選択にってしまった方が講義は進めやすいと思う。(12/4・会社員・自営 30 代)
- 話を聞きながら入力する事に慣れていないので、入力に手間取った。②チャットの内容を、進行の方がチェックされていたようですが、先生に質問として伝えるなら、他にチャットのチェックとチョイスだけをされる方を用意されても良いのではと思いました。(12/4・会社員・自営 40 代)
- Q&A 機能からリスナー誰でも質問ができるということをもう少し煽っても良いかもしれません。(12/3・京大職員 30 代)

〈その他 (11 件)〉

良かった点 (4 件)

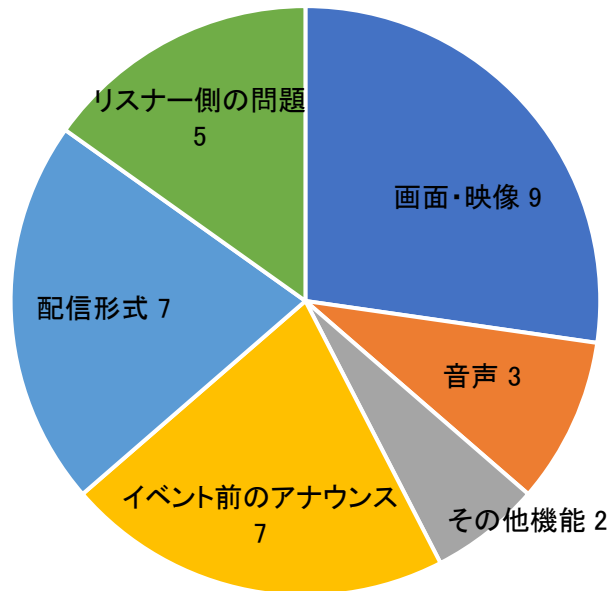
- 突然 Q&A がファシリテーターの方から出されることに最初はとまどいがあったが、そのうち慣れました。(12/3・京大以外の大学職員 40 代)
- Q&A 機能で回答するのが楽しかったです。(12/4・高校生 10 代)
- 対話者のツッコミのタイミングが中々良かったです。(12/5・その他 50 代)
- Q&A はそれほど用いられていないようだったけれど、参加者の方々がテンポよく質問などして楽しかったです。(12/5・高校生 10 代)

課題だと感じる点 (4 件)

- 投票はスムーズにできたのですが、回の終盤まで受け付けますと仰っていた回答のしかたが分からなかったです。(12/4・京大以外の大学職員 30代)
- 良かったが、説明の間が長かった。(12/4・会社員・自営 40代)
- 参加者との Q&A はあまり機能していなかった感じがします (12/4・京大以外の大学職員 50代)

- 今回の Zoom でのオンライン開催で不便に感じられたこと、困ったことがあれば教えてください。

(単位：件)



※ 「特に問題はなかった」という回答、並びに無回答の 39 名については、上記の図グラフから除外。

・主な意見

〈画面・映像 (9 件)〉

- 画質が少し悪く研究所案内が見づらかった。(12/3・その他 10代)
- 例えばですが、研究室の装置の説明を、3D で説明してもらえるとよかったですと思います。(12/3・無職・アルバイト 60代)
- 音や映像が不鮮明な時があった (12/3・高校生 10代)
- 新津先生の画面固定をしていただきたいところで、画面が相槌をされている対話参加者の方々の画面に切り替わってしまった点が少し不便に感じました。(12/3・京大以外の大学などの学生 20代)
- 研究室の画面など見たい画面が選べないところですが仕方がないのかもしれませんが。(12/3・京大職員 30代)
- フリップを使用するならバーチャル背景との相性等事前にテストをするべきでしたね。(12/4・京大職員 50代)
- 見たい画面が見られない。(12/4・公務員・団体職員 30代)
- たまに映像が途切れました (12/4・会社員・自営 20代)
- 研究室紹介の画像が見にくかった。(12/5・京大職員 60代)

〈音声（3件）〉

- 研究者の音量よりも参加者の音量が大きくならないようにして欲しい。またできれば研究者の発言はきちんと受け取りたいので、発言者の声の入力方法を身につけるタイプ（耳でも胸元でも）のマイクにするなどして、聞き取りやすくして欲しい。（12/4・主婦・主夫 40代）
- 対話参加者の相槌やリアクションの音が気になりました。（12/4・会社員・自営 20代）
- リアルタイムでやり取りする際は仕方がないことだと思いますが、ハウリングが気になりました。（12/5・その他 50代）

〈その他機能（2件）〉

- 反応ボタンを使いたかった。（12/3・会社員・自営 30代）
- 普段と違ってQ&A/チャットを開いていると画面が隠れてしまうので、しょっちゅう閉じたり開いたりしなくてはならなかった（12/4・高校生 10代）

〈イベント前のアナウンス（7件）〉

- メールアドレスなどを入力しないといけないことを事前に伝えてもらえると、もっとスムーズにzoomに入れるかと思いました。少し手間取ってしまったので。（12/4・会社員・自営 40代）
- 初めて使ったため、音声の出し方が分からず、開始数分は聞けなかった（12/4・会社員・自営 40代）
- URLの連絡が当日だったので、前日までに連絡が欲しいと思います。（12/4・無職・アルバイト 60代）
- Zoomに慣れてると思っていたが、対話参加者付きのウェビナーはあまり参加や企画したことがないので、どこをクリックしたら何が拡大されるかなど知っていなければ不便かも。（12/5・京大教員・研究者 30代）
- 「CHAT」と「Q&A」の使い分けを整理してほしい。（12/4・京大以外の大学職員 50代）
- Q&Aで質問したら本名が公開されてしまった。後でよく見たら匿名で送信というチェックボックスがあった。（12/4・教員・研究教育関連 50代）
- 視聴者へのQ&A、パネリストへのQ&A、その解説が、錯綜していた。もう少し整理してもらった方が、内容が入ってくる。（12/4・会社員・自営 40代）

〈配信形式（7件）〉

- Zoomより、youtubeで限定公開のほうがやりやすいと思います。（12/3・無職・アルバイト 60代）
- こちらの都合ですが、帰宅途中のトンネルでどうしても電波が途切れてしまい、他にも用事で途中が抜けてしまったため、後から通して視聴できたらありがたいなと思いました（12/3・会社員・自営 40代）
- 昨日も今日も、終了時刻をオーバーして、最後の方は巻きでお話されていました。他の参加者の方は分かりませんが、私は時間が過ぎても良いのでゆっくり最後までお話を伺いたかったです。（12/4・京大以外の大学などの学生 20代）
- 資料は、別展開して欲しい。手元で見れる様にした方が分かりやすくなる（12/4・会社員・自営 40代）
- ブルートゥースで聴きながら、時に家事したりトイレに行ったりして他のウェビナー聴いてることもある。そう思うと、スライド依存ではなく、ゆっくり発音してラジオ番組形式で配信するというのが良いように思う。主催者と当日参加者は顔が見える対話が、意思疎通の基本なので、司会、発表、対話参加者は顔が見える対話をしつつ、リスナーに向けては概ねスライドがなくても楽しく聞いていられるという形式が一番良いと3日目見て判断した。Streamyardというのが参加した学会の中でそれを一番スムーズに実現しているプラットフォームであった。運営側と発表者だけ見えるチャットとか、機能が豊富で初めて発表参加者として使ったが便利で

やりやすかった。(12/5・京大教員・研究者 30 代)

- このやり取りを 100 人の人間が視聴しているということは、これはパネルの前の立ち話ではなく、講演会の壇上か、ラジオ放送のスタジオで研究者の話を聞いているのと似たようなことなので、(今回の対話者はこういったことにも随分慣れておられたようですが)ほんとうの一般市民だとおいそれと質問する勇気が出ないかもしれませんね。(12/5・京大以外の大学職員 50 代)
- 質問がしにくかった(12/5・教員・研究教育関連 40 代)

〈リスナー側の課題 (5 件)〉

- スマホ画面と PC 画面では全然見え方が違います。タブレットでの参加者、スマホからの参加者だと対話参加者の様子はほぼ見えません。授業でもそうなので仕方ないですが。(12/3・京大教員・研究者 30 代)
- なかなか繋がらなかった (12/3・会社員・自営 40 代)
- 途中接続不良になった数秒がありましたが、内容の理解を妨げるほどではありませんでした。(12/3・教員・研究教育関連 50 代)
- (個人の環境の問題ですが) ZOOM が途中で落ち、最後まで視聴できなかったのは残念でした。(12/3・会社員・自営 50 代)
- 最初の入り方で手間取った。(こちらの問題でしたが。)(12/4・その他 40 代)

〈特に問題なかった (27 件)〉

- 外出からでしたのでスマホからでしたが、特に問題はありませんでした (12/3・無職・アルバイト 60 代)
- 皆無です。仕事帰りの電車の中で視聴できて、この上なく快適でした。コロナのことがなくとも、こうした取り組みは推進されるべきですね。(12/4・京大以外の大学職員 30 代)
- ゴロゴロしながら聴けるというのは非常に良い。(12/5・京大教員・研究者 30 代)

[ここからは、対話参加者・リスナーへの事後アンケート合算]

● オンラインでのアカデミックデイに参加しやすい曜日や時間帯を教えてください。(複数回答可能)

※ 午前中 = 10時 - 正午、昼間 = 13時 - 16時、夕方 = 16 - 18時、夜 = 18時以降、週末は土日として算出。

※ 無回答の7名については、上記の表からは除外。オレンジ色の部分が最頻値。

〈10 - 20代〉

(単位:人)	朝	昼	夕	夜	終日
平日	0	1	0	10	0
金曜日	0	1	0	4	0
土曜日	0	2	1	8	6
日曜日	0	2	1	7	6
祝日	0	1	0	3	0

〈30 - 50代〉

(単位:人)	朝	昼	夕	夜	終日
平日	0	1	0	40	0
金曜日	0	0	0	17	0
土曜日	6	3	3	23	6
日曜日	7	2	2	22	8
祝日	2	2	1	17	2

※ いつでも良い: 1人

〈60歳以上〉

(単位:人)	朝	昼	夕	夜	終日
平日	0	0	0	8	0
金曜日	0	0	0	6	0
土曜日	2	1	0	10	1
日曜日	2	1	0	7	1
祝日	0	0	0	6	1

※ いつでも良い: 4人

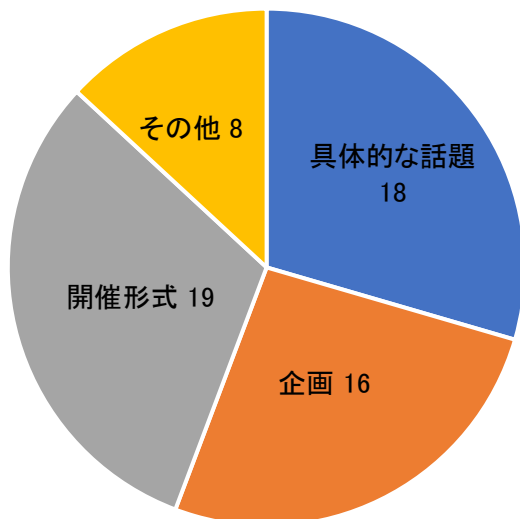
・ 主な意見 (理由まで書かれているもののみ採用)

- 仕事終わった時間の夜がオンラインではちょうどよいです。(30代)
- 私は家族がいるので、平日の夜の方が、週末の予定に左右されないのよい。(50代)
- 平日の20時以降かと思う。周囲に聞いた結果、19時はまだ仕事や部活から帰宅していない。ご飯食べながら

もしくは食後の休憩時間くらいがほどよく、土日は休みの日なので学外活動や旅行など行事があるので、よほどの京大イベントに用事があったり好きでない限り参加してもらうのは難しい。(30代)

- 週末の昼間にも設定いただけると嬉しいです。連日でなくても、何週間か毎週何曜日開催とか。今回、初参加です。京都市内在住ですが、オンラインだから参加しようと思いました。(60代)
- 平日でも19時以降なら可能ですが、土日の方がありがたいです。夫もアカデミックデイをいつも楽しみにしているのですが、平日だったため参加できませんでした。(30代)

- オンラインでのアカデミックデイについて「こんなことをしてほしい」企画のアイデアや、要望などありましたら、教えてください。



(単位：件)

※ 無回答の42名については、上記の図からは除外。

・主な意見

〈具体的な話題 (18件)〉

- 今日のように最先端研究を分かりやすく伝えて頂けると嬉しいです。(12/3・京大職員 60代)
- AI やロボティクスにより人の仕事がなくなりつつある中で、人は何をすべきか、勉強・仕事をしていく中で心の拠り所となる、科学技術を受け止めるための新しい哲学を知れるとありがたい。(12/3・会社員・自営 30代)
- 一般にはあまり知られていない研究を紹介して欲しい。(12/3・無職・アルバイト 60代)
- コロナウイルスなどウイルス関連の話題とワクチン開発について (12/3・会社員・自営 60代)
- 宇宙物理学の最先端 (12/3・教員・研究教育関連 50代)
- さらに尖った分野の話が聞きたいです。(12/3・会社員・自営 30代)
- 情報分野について (12/3・高校生 10代)
- 環境汚染、温暖化をもっとわかりやすく、今の状態でいくと、過去20年前、現在、30年後どうなるかが、予測値を知りたいです。どうぞ宜しくお願い致します。(12/4・主婦・主夫 60代)
- 漢字に関する話が聞きたいです。(12/4・中学生 10代)
- 教育学(主に生涯学習)に関心があるのでその講義があれば是非参加したいです。(12/4・対話参加者)
- 研究の初め方 (12/4・高等専門学生 10代)

- 今後もしばらくはコロナウイルスの影響で、海外に足を運ぶことは難しいと思われま。なので先生方の貴重な海外に纏わる研究内容をお聞きし、少しでも外国の風に触れられたらと思います。(12/4・京大以外の大学などの学生 20 代)
- 研究者さんたちのフィールドワークの様子などもっと知りたいと思います (12/4・高校生 10 代)
- 「ない」「数詞がない」「一つ、二つ、それ以降はたくさんしかない」のそれぞれはだいぶ違うことだと思います。まさに「ない」世界をきちんと扱う企画があれば是非拝聴したく思います。(12/4・教員・研究教育関連 30 代)
- 数学、知能、進化、脳 (12/5・会社員・自営 60 代)
- 生命倫理のディスカッションなど (12/5・高校生 10 代)
- 宇宙物理学、生物の進化 (12/5・教員・研究教育関連 70 歳以上)

〈企画 (16 件)〉

- 研究室というか、研究テーマみたいのをいくつかまとめてこんな研究しています、のような企画とか、公開実験みたいなのがあって興味があります。(12/3・無職・アルバイト 60 代)
- こんなところにカメラが入った的な貴重なものが見たいです。(12/3・京大職員 30 代)
- 中高生が将来の進路を考える参考になるような企画 (12/3・中学生 10 代)
- 科学や物理の現状を知ってもらうことを、こどもにでも分かるようなやさしい楽しい企画をしていただくとより多くの人に関心や興味を持ってもらうことができると思います (12/3・無職・アルバイト 60 代)
- 同じ質問に対して、分野が違えば、答えはどのように多様なかを、聴きくらべてみたい。(12/3・会社員・自営 50 代)
- ZOOM の他にも REMO や Spatial Chat などいろいろありますが、話を聞きたい研究者間を自由に行き来し聴講できるフリータイムみたいなものがあると良いかもしれませんが、一人の研究者に聴講者がたくさん集まると難しいかもしれません。(12/4・教員・研究教育関連 50 代)
- 100 人論文のその後をフューチャーしたもの！どんなコメントを寄せた人と研究者が、どのようなやりとりをして、新たな研究のきっかけとしているかをリアルタイムで拝見したい。(12/4・京大以外の大学職員 30 代)
- 研究者同士の「対話 (対談)」をオンラインで見たいです。(12/4・京大以外の大学職員 50 代)
- 視聴者からの質問中心。(12/4・公務員・団体職員 30 代)
- 世界中にいる研究者とのリアルタイム交流(12/4・京大職員 50 代)
- ファシリテーター有り、対話参加者無しでリスナーがガンガン質問をする企画でも良いかと思います。(12/4・京大生 30 代)
- オンラインだと映像や音声をふんだんに使えるので、活用できるとよいか。通常なら入れない場所からのライブなど 具体性がなくてすみません (12/4・会社員・自営 40 代)
- 実験の体験 (12/5・無職・アルバイト 40 代)
- 研究者の先生が次の対話担当の先生を引きずり出してどんどん関連の面白い先生達の回が発生する、とかがあってもいいかも。(12/5・対話参加者)
- アカデミックさはほとんどないかもしれないが、ライブでなくてよいので、構内散歩を見てみたい そして必要に応じて研究の紹介をする ブラタモリ的な？(12/5・会社員・自営 40 代)
- 専門の先生が答える一般視聴者からの質問コーナー。(12/5・京大職員 30 代)

〈開催形式（17件）〉

イベント時間

- 質問が溜まったまま終わってしまったので最後に5分程質問の為の時間を用意してもらいたい。(12/3・その他10代)
- 時間は、あと15分くらい長いほうが良いのではと思いました。(12/4・会社員・自営30代)

日程

- 月に一回、色々な分野の先生方のお話をお伺いしたいです。(12/3・対話参加者)
- 無責任に希望を言うと、もっと頻度を多く開催してほしいです(笑)(12/3・対話参加者)
- 夏にも実施してほしい。(12/3・無職・アルバイト60代)
- 夏にも開催ください。(12/4・無職・アルバイト60代)
- 年4回ほど開催してほしいです。(12/5・無職・アルバイト60代)

発表数

- 発表研究者の数が少ないので可能な限り増やしていただければ嬉しいです。(12/4・教員・研究教育関連50代)
- もっと数を増やしてほしい。(12/4・その他40代)
- オンラインでできるならもっと講義数を増やして欲しい。(12/4・会社員・自営30代)
- 今回とても楽しかったので、よりたくさん先生の話をもっと聞いてみたいです。(12/4・会社員・自営30代)

資料・アーカイブ

- 資料の配布(12/4・京大以外の大学などの学生20代)
- アーカイブ配信、資料PDFがほしいです。(12/4・会社員・自営20代)
- アカデミックデイ終了後に一定期間でよいので、再視聴できるようにしてほしい(12/4・無職・アルバイト60代)
- リアルタイムでなくても、オンデマンドYoutube動画でも一人の研究者の話を5分くらいにまとめていただいたものも見れると良いかもしれません。(12/4・教員・研究教育関連50代)

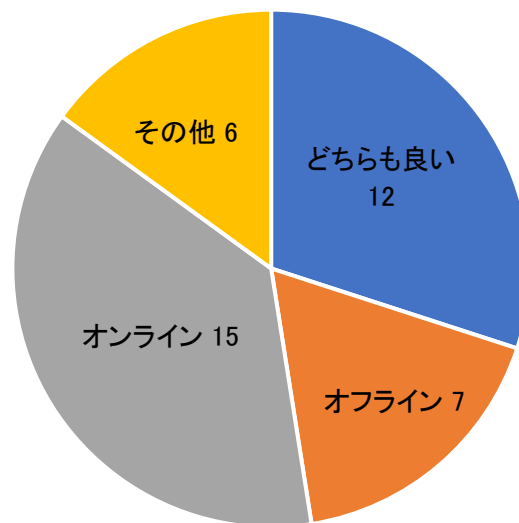
オンライン / オフライン

- スターセッションはオンラインでやっても面白くないので、研究者の対話と研究者の図書室ネタはオンラインでもやってもらえるとうれしいかも(12/3・会社員・自営40代)
- 遠方で京大へ行けないので、今回のオンライン開催はとてもよかった。参加者との対話部分はオフラインで対面の方が盛り上がりそうなのでオンオフ併用(会場で開催してオンライン配信)がよいと思う(12/4・小学生10代)
- ポストコロナでも、対面とオンラインのハイブリッドが良いと思いました。一般の方の参加は、よかった。司会、ファシリテーターの手腕にかかっている気もした(12/4・京大教員・研究者40代)
- これまでの直接対面の形式と、ほんの一部でも構わないのでライブ配信の形式とのハイブリッド形式であると、遠方からも参加しやすくなるのではないかと思います。(12/5・その他50代)

〈その他（5件）〉

- 初めて試聴したので、他にどんなものがあるのに興味を持ちました(12/3・会社員・自営 40代)
 - 今回のような研究者の先生のお話をまた聞きたいです。(12/4・高校生 10代)
 - ポスターセッションはあまりドライブしなさそうなので労力の割に実り薄そう。研究者の本棚はオンラインで買えるようにしてもいいかも(12/3・対話参加者)
 - ラジオ番組形式のトーク番組配信というのが良いかもしれない。(公開しにくいスライドを削除して、配布用スライド資料を最後に添付するとか。)(12/5・京大教員・研究者 30代)
 - このオンライン企画は、face-to-face のアカデミックデイとはまた別に続けてください。ただ、実は「周囲に何百という人の耳目がある」ということを意識すると、本当の一般市民は話しかけづらいでしょうから、オンライン企画のこれはこれでプロフェッショナル同士の対話という建て付けにして、それに対して一般市民がチャットやコメントで介入する、という形が良いように思います(nico 生方式は結構おもしろいですよ)。それから、講師はスライドに過度に依存してしまうように思います。スライド上の膨大な専門的情報量は「対話」を引き出すうえで邪魔になるのではないかと感じました(2日目の西本先生のときもそう感じました)。どうしても講師側の情報が一方的に多くなってしまい、相当に意識の強いひとでないと割り込んで質問することができないからです。(12/5・京大以外の大学の職員 50代)
- これまでにアカデミックデイに参加されたことがある方へ質問です。オフライン(京大へ足を運ぶ)開催とオンライン開催、どちらの方が良かったと感じましたか?また、その理由について教えてください。

(単位:人)



※ 無回答の 58 名については、上記の図からは除外。なお、過去に参加されたことがある人だけが回答しているか確認はできない。

・主な意見

〈オンライン（15件）〉

- オンラインも悪くないと思いました。(12/3・京大職員 60代)
- オンラインの方が良かった。理由: 広島に住んでいるので、これまでは参加したいと思っても出来ていなかったから。(12/3・その他 10代)

- 往復 4 時間かけて今までは、足を運んでいましたが、オンラインだと移動時間がなくなるので助かります。(12/3・無職・アルバイト 60 代)
- オンライン。気軽に参加出来る (12/3・高校生 10 代)
- 東京在住なのでオンライン参加できてよかったです。(12/3・会社員・自営 50 代)
- オンラインの方が気軽に参加出来て良いと思います。(12/4・教員・研究教育関連 60 代)
- オンライン開催。一方的に聞くだけというのも手軽です。(12/4・京大生 30 代)
- オンライン、遠方で会社員なので、オフラインだと参加しづらい。(12/4・会社員・自営 40 代)
- 東京在住なのでオンラインで参加できてよかった (12/4・会社員・自営 50 代)
- オンライン開催 移動時間がないのが良い。(12/4・無職・アルバイト 60 代)
- オンライン。質問しやすい、場所を問わない (12/4・会社員・自営 20 代)
- 私はオンラインでしか参加したことがありませんが、十分研究者の発表を楽しめました。京大の先生独特の雰囲気画面越しでも伝わってきました。(12/4・京大以外の大学の学生 20 代)
- オンライン開催が良いです。話をするよりも聞くだけで十分です。(12/5・京大職員 30 代)
- オンライン開催 (12/5・60 代)
- 交通費や滞在費が不要であるのでオンラインの方がいい (12/5・教員・研究教育関連 70 歳以上)

〈オフライン (7 件)〉

- 多くの研究者と自由に交流したいので、イベントは現場が良いですが、オンラインにはオンラインの良いところがあるので、オンラインでするしか仕方がない状況の時は、オンラインでできる良いことをフル活用すればよいと思います。(12/3・京大教員・研究者 30 代)
- オフラインがいいですね。コンテンツ量が 100 倍くらいあるので。ただし、例年時間が足りないから 3 日位やって欲しいと思っております。オンはオンでメリットもありますが、コンテンツの切り出しなので。(12/3・対話参加者)
- オフライン。ただ、オンラインはオンラインの良さがあるので、「アカデミックデイ」とは別の看板を掲げてもいいと思う。(12/4・京大以外の大学の職員 50 代)
- やっぱりオフライン。リアルなやりとりだと、言葉のない“マ”までが楽しい。(12/4・京大職員 50 代)
- それはやはり圧倒的にオフラインだと思います。近くに住んでいるから行けるということもありますが、その場に身を置き、直接対話できるからです。距離で間合いも取りやすいので聞きたいことが自由に聞け、議論も自由にできるというのは貴重な機会。学会や講演会の公開質問と懇親会の中間的なポジションでしょうか。オフラインなら録画されないというのも気楽で良いと思います。コロナ禍の中開催していただきありがとうございました。(12/4・教員・研究教育関連 50 代)
- 可能な限り、実際に生で話が聞けるオフラインの方が良いと感じます (12/4・中学生 10 代)
- やはりオフラインの方が良いと思いました。(12/4・京大職員 60 代)

〈オフライン・オフラインどちらでも良い (12 件)〉

- オフラインの方がもちろん良いが自宅が遠いので気安く参加出来るとても良い (12/3・会社員・自営 40 代)
- どちらも良いです。(12/3・京大職員 30 代)
- 昨年は京大へ行きました。私も京大大学院の 0B で、足を運ぶ機会があるのも嬉しいですが、オンライン開催もワインを飲みながら聴くことができ楽しかったです。(12/3・教員・研究教育関連 50 代)
- 凡人が専門家に質問することのハードルは、オンラインだと低く感じますが、対面で研究者のたたずまい(服



- 装、声、表情、熱量)を感じながら、緊張しながら対話する魅力は捨てがたいです。(12/3・会社員・自営 50代)
- どちらもどっちで良さがありますね。ポスターセッションも楽しみなので、来年はオフラインで開催できますように！(12/3・会社員・自営 40代)
 - 個人的には両方ともよかったです。会場で、直接研究者とお話できるのも楽しいですが、オンラインで、聴講するのも楽しかったです。(12/4・京大職員 40代)
 - 京大へ足を運ぶ開催の方が楽しいかと思います。それは、人間が本来集団生活を欲する本能を持っているからでしょう。他方、世界中の日本語を理解する方が平等に受講できるというメリットも生まれましたので、悪いとは言えないと思います。(12/4・主婦・主夫 60代)
 - オフライン開催の方がたくさんの研究に触れることができるのでよいが、どこにいてもその時間だけ確保すれば参加できるオンライン開催も良い。併用希望。(12/4・その他 40代)
 - どちらもそれぞれに良さがあると思います。オフラインは、沢山の研究にふれたり、より直接お話しできる良さがある、オンラインは腰を据えてより深く話を聞ける良さがありました。オフラインが再開しても、今回のような講座も続けてほしいです。(12/4・会社員・自営 30代)
 - オフラインだと思ってみなかった出会いがあるので良いと感じるがオンラインも先生とともに一般の方が話の途中に質問してくれるので聞きながら一緒に考えたり、こういう考えしてるんだとか気づきもあったのでどちらがよいというより両方よかったです！(12/5・京大以外の大学などの学生)
 - オフラインのアカデミックデイでは、予想外に面白い研究との出会い、オフラインだからこそ研究者の本音やこぼれ話が聞けることの2点が醍醐味だと思います。オンラインでは、遠方からでも参加できることがメリットではないでしょうか。(12/5・その他 50代)
 - オフラインの方が大量の先生の研究内容が知れるので個人的には楽しいですが、オンラインはオンラインで良かったなと思います。(12/5・対話参加者)

〈その他 (6件)〉

- オンラインも悪くないように思いました。(12/5・京大職員 60代)
- アカデミックデイは確かに学外の人で常連の研究以外の大人の方に何が楽しいのか聞きたいが、一般参加はありがたいこと。ぜひ高校生以下の子供にも参加してほしい。私は子供の才能や疑問や不安や知的好奇心を伸ばすきっかけの場にもこの場を使って欲しいと思う。(12/5・京大教員・研究者 30代)

3-2. 対話研究者アンケート

■ 3-2-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、対話研究者のみなさまにもアンケートにご協力いただきました。京都大学アカデミックデイに参加した感想、印象に残ったこと、また今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による「国民との科学・技術対話」活動の本学での支援についてのご意見・ご提案もご記入いただきました。

● 出展者アンケート

〈方法〉

- ・ウェブフォームから回答

〈設問〉

・問1. 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想を、以下のそれぞれの項目についてお聞かせ下さい。(回答必須)

選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない

- (a) 専門外の方の自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた
- (b) 専門外の方と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
- (c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
- (d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
- (f) 研究内容を専門外の方に説明する訓練となった
- (g) 参加は日々の研究活動の負担となった
- (h) 機会があったらまた参加したい
- (i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい

・問2. 対話参加者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った (or 必要だと感じた)工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。

(非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください)

・問3. 対話参加者との対話の中で、どのようなことが特に印象に残りましたか。

(非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください)

・問4. アカデミックデイ終了直後に対話参加者と交流するための時間はあったほうが良いと思いますか？

選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない

また、その理由もお書き下さい。

(非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください)



・問5. 「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見（良かった点・改善点）や今後に向けたご提案などありましたらお書きください。

5-1【良かった点】

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

5-2【改善点/課題】

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

5-3【今後に向けた提案】

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

・問6. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

・問7. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

・問8. 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URAによる支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

・役職（回答必須）

選択肢：教授、特定（特任）教授、准教授、特定（特任）准教授、講師、特定（特任）講師、助教/助手、特定（特任）助教/助手、研究員、博士課程（博士課程後期）大学院生、修士課程（博士課程前期）大学院生、その他]

・研究分野（回答必須）

選択肢：社会科学系、人文科学系、理工学系、医薬生命科学系

・お名前（回答必須）

・ご所属（回答必須）

・ご連絡先（E-mail）（回答必須）

・当日の参加者について、出展申込書に記入いただいた時点から変更がある場合で、報告書等への記載を希望される場合は、氏名／所属／職名又は学年等をご記入ください。

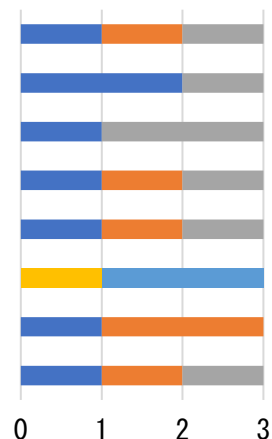
■ 3-2-2. 「対話研究者アンケート」の結果

出展者数 3人

回答者数 3名（回収率 100%）

・「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想

- (a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度を把握することができた
- (b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
- (c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
- (d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
- (f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった
- (g) 参加は日々の研究活動の負担となった
- (h) 機会があったらまた参加したい
- (i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい



■ 大いにそう思う ■ ややそう思う ■ どちらでもない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

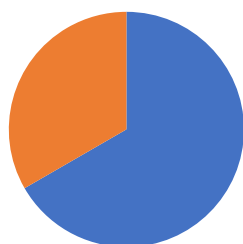
● 対話参加者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or 必要だと感じた）工夫やコンテンツ

- ZOOM 配信ということで、普段の研究公開ではできない研究室の見学は視聴者の皆さんに楽しんで貰えたと思っています。
- 選択式回答、アイスブレイク時間は貴重だった！質問リストを手元に置いておいてよかった。私自身の準備不足を反省した。
- もともと一般市民とのアウトリーチには慣れている。説明責任もすでに自覚している。わかりやすく伝えられたかは不明で、批判的フィードバックもよく見て考えたい。負担どころかこの発表のために新たに研究や調査をしてはまってしまう、反省しているがおかげで生き生きした自分を取り戻せた。事務局担当者のアシストが非常に有効だった。運営側の人によるタイムキーパーなどがとてもよかった。
- これまでに一般人向けに作っておいたスライドが役に立った。

● 対話参加者との対話の中で、印象に残ったこと

- 原子と分子の違い。単純なようで説明は簡単ではないなと思いました。
- 一つだけ、私が答えられない質問が配信中にあり、一瞬フリーズした。ともかくこのように普段考えてなかったけど考察すべき点が見つかった。今回は話題内容に、もしかしてあわせてくれたのかな？と思うと申し訳ないけれども、驚くほどスムーズで自分を誇示したりせず、しかし、怖じたり、動じずに堂々と話してくれたのでよかった。対話参加者の言ったことを画面操作しながら、メモするのが難しいなと思った。それから、「嘘つき」さほど話題性はないつもりだったのが意外と盛り上がりってしまった、スライドに書いても、何に注目するか、どう受け取るか人それぞれなので仕方ないのだが……。
- 自分が当たり前だと思っていたところに興味を持たれるのが印象的であった。

- アカデミックデイ終了直後に対話参加者と交流するための時間はあったほうが良いと思いますか？



- 大いに思う
- やや思う
- どちらでもない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

〈大いに思う理由〉

- 一緒に当日運営してもらった対話参加者なのでとても感謝するし、本来なら現場で打ち上げ懇親会したいくらいである。舞台裏での交流は大切である。オンライン飲み会というのも企画してもいいかもしれないが、対話参加者を長く拘束するのは申し訳ない。
- 多分皆さんの前では質問を躊躇われている方もいるのではないかと思います。

〈やや思う理由〉

- 配信時間内で回答できる質問は限られるので、後でゆっくり話せるほうがこちらとしてもいいです。

- 「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見（良かった点・改善点）や今後に向けた提案

良かった点

- URA の方に懇切丁寧にご指導いただきました。初めてのことでいろいろと苦心しましたが、多分に助けていただきました。
- 開始のライドがとてもおしゃれでした。まさに大混乱中、臨場感持ってカオスにはじまったのだが、それはそれで良かったと思う。とにかく非常に精緻に準備し、考察し、宣伝して企画運営されていることが非常によくわかった。非常に体系的で、連携体制が整っている。BGM は著作権の問題があるのでオンラインだと難しいのはわかるのだが、私が主催し司会したイベントは厳選した BGM もセットしていたので、BGM が何調かで聴こえ度や感情への刺激が変わるので BGM 選択、考察の余地あり。
- 全般に良かったと思います。

改善点/課題

- 発表に入るまでのイントロが12分程ありましたが、もう少し短くしてもよいかと思いました。対話者の途中の質問は何時でも OK としていましたが、話題とかけ離れた質問が来ないか少しヒヤヒヤしました（結果的にそのような質問は出ませんでした）。
- エンディングは一枚スライドで終えたかった、終わりを綺麗にできなかったのが無念である。しかし勝手に最後に共有するのは控えた。起承転結があり、最後に多様な登録時のコメント、配信中の話題を反映したまとめのつもりでした。
- 多分、個人として話がしてみたいと思った人が多いのではないかと思います。

今後に向けた提案

- 記述式質問はやめ議題とし対面参加者との雑談にし、選択式回答を流し、画面にテロップで質問のタイトルが流れたら良いと思う。人数は4人で私の場合はちょうどよかった。1日目の方だが iPad の画面設定の問題だったのかもしれないが、発表者がスライド共有して話している時に司会者の顔がスライドの下に出たのがやや不自然だった。

- 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。
 - 国民対話という意味では年齢性別に関係なく、あらゆる方に聞いていただきたいと（またそうすべきと）思っていますので、どなたでも歓迎です。
 - 今日のように飛び込みでその場で知り合うというのが、作られた科学や、用意された番組ではないのでとてもいい。
 - 私は、中学生、高校生の時大学の先生と素朴な交流をしたことが良い刺激になったので、高校生向け、中学生向けオンラインセミナーもできたら良いと思う。KURAは京大の良さをフルに世間に伝えることができる。

- 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URAによる支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。
 - 今回のように実際の発表者の名前が出ると、私としてもアウトリーチ活動の一環として宣伝できますので、大変助かりました。
 - URAの人たちが生き生き楽しく働いているのがとても印象的。京大のKURA/URAは本当にすごい。楽しく良い雰囲気の仕事をしていることが非常によく伝わる。それが本来のあり方に思う。久しぶりに京大らしい京大スタッフと交流でき、研究者の心が蘇った。

4. 次年度以降の検討事項

● リスナーという立場

今回のオンラインイベントを通じて、これまでのアカデミックデイにはなかった「リスナー」と呼ばれる立場の人々が生まれました。リスナーは研究者と対話をするわけではなく、顔や声が他の人に公開されるわけでもありません。しかし、ただそこにいるだけ、ということではなく、気が向いた時に質問や感想を投げかけることができ、研究者からの質問に答えることもできるという、現地に行くことなく、匿名で身軽・気軽な立場でイベントに参加できるスタイルは、これまでのアカデミックデイ来場者層とは少し趣の異なる人々を惹きつけたようです。アカデミックデイをさらに盛り上げていくためには、今後、リスナーという立場を好む人々を取り込んでいく必要があると考えます。そのために、アンケート結果等から明らかになった、リスナー視点を満足させられる配信のあり方について、リスナーの人々のイベントに対するモチベーションの観点から考察します。

イベント配信時の様子やその後のアンケート結果から、リスナーのモチベーションは、大きく3つのパターンに分かれることが示唆されました。

1つ目が、「話をするよりも聞くだけで十分です」「一方的に聞くだけというのも気軽です」という感想が示すように、研究者と一般の人が話している様子は聞きたいけれど、自分は話しかけられたいと考える方々です。こうしたニーズを持つ層に対しては、例えばラジオのように、プレゼン資料は用いずに純粋に研究者と一般市民の対話だけで進めるというイベント方法も一案として考えられます。

2つ目は、画面共有されたスライドをじっくり見ながら、講義のようなスタイルで聞きたいと考える方々です。こうしたニーズを持つ方々は、イベントが良かったと感じた理由の中に「リスナーも投票で参加でき、双方のやり取りができたこと」とあったように、投票機能を使って研究者からの質問に答えるなど、ある程度の相互交流を望んでいることが推測されます。よってこの層に対しては、資料を共有しながら、リスナーが積極的にYes / Noで答えられるような問いかけを研究者側がしていくようなイベント方法が考えられます。

そして3つ目が、Q&Aやチャットといったコミュニケーション機能を使って積極的に対話の中に入っていく方々です。この層の方々は、「聞いているリスナーの質問にも答えていただけだったので非常に良かった」「凡人が専門家に質問することのハードルは、オンラインだと低く感じます」といった感想にあるように、積極的に匿名で疑問や感想を投げかけたい、という思いがあるのだと推測します。これに関連する課題としては、「極めて書き込みにくい雰囲気があった」という感想がいくつかあったことです。今年度のアカデミックデイは初のオンライン開催だったため、リスナーの匿名性が確保できない可能性、メッセージが飽和状態になりURAが対応仕切れなくなる可能性、並びにネガティブ・センシティブなメッセージが書き込まれる可能性、という3点のリスクを考慮しました。その結果、匿名性が確保できるQ&A機能を使って疑問や質問を書き込むことができることは、イベント開始冒頭に口頭で一言アナウンスしたものの、研究者からの質問に自由記述で回答してもらう以外の方法で積極的にQ&A機能を使ってもらう仕掛けは用意しませんでした。そこで、こうしたニーズを持つ方々に対しては、チャット機能とQ&A機能の使い分けを明示した上で、イベント中にこうしたコミュニケーション機能の使用を複数回呼び掛けたり、質問や感想等を自由に書いて回答してもらう時間を設けたりすることで、気軽にメッセージを書き込める雰囲気づくりをする方法が考えられます。

以上より、一言で「リスナー」といっても、それぞれのニーズに応じて対応策は変わってくることが考えられます。次年度以降、国民との科学・技術対話を基にしたアカデミックデイの趣旨と、リスナー

のニーズが合致するような企画を検討することで、従来の対面型の対話スタイルだけでなく、新しい形の研究者と市民の対話スタイルについても検討していく必要があると考えます。

● 配信場所・時間

今回のオンラインイベントでは、「実験室の様子が見れたことは、オンラインならではのとてもよかったです」や、「研究室の色々な機械もみれて面白かった」といった感想にある通り、実際の研究現場から配信されたことに対するポジティブな意見もたくさんいただきました。今後やってほしい企画のアイデアの中にも「こんなところにカメラが入った的な貴重なものが見たいです」といった声があるように、現地に行かずともオンラインで手軽に映すことができる場所を見ることができ企画は、今後も続けていく価値があるように思います。

次いで開催時間について、事後アンケートの結果から、10代～50代の年齢層においては平日の夜に参加しやすい人が多いことがわかりました。「帰宅途中の視聴」、「ワインを飲みながら聴く」、「ゴロゴロしながら聴ける」といった感想が示すように、学校 / 仕事帰りに、帰宅後の夕食中に、夕食後のリラックスタイムに等、いわゆる“ながら作業”ができる時間帯が好まれる傾向にあるようです。今後もオンライン形式での開催を視野に入れるのであれば、開催時間についても考慮することでより多くの方々にアカデミックデイにご参加いただけることが予想されます。

● Zoom ウェビナーにまつわるアナウンス

対話参加者に対しては、イベント開催日前に必要なに応じて複数回メールにてやりとりを行ったことにより、滞りなく進めることができました。一方、リスナーに対しては、事後アンケートの感想から、アナウンスの時期と内容について少し課題が残された結果となりました。

まずは Zoom ウェビナーに入室するための URL 送付時期について。「前日までに連絡が欲しい」という感想があり、また、事前登録の段階では登録数が 404 名であったのに対し、実際に当日視聴された人の数は 217 名と約半数減となりました。これらのことから、当日参加することへの不安を取り除くだけでなく、イベント日を忘れて別の予定とブッキングしないようにするためにも、当日より半月ほど前に一度連絡し、当日にもリマインダーとして連絡を行うという方法が考えられます。

次いで、事前連絡の内容について。「メールアドレスなどを入力しないといけないことを事前に伝えてもらえると、もっとスムーズに Zoom に入れる」、「初めて使ったため、音声の出し方が分からず、開始数分は聞けなかった」、「対話参加者付きのウェビナーはあまり参加や企画したことがないので、どこをクリックしたら何が拡大されるかなど知っていなければ不便」など、Zoom アプリを使用したことがない人や、使い方に慣れていない人も一定数いたことがわかりました。そのため、今後はメールへの記載事項として、視聴手順をわかりやすくまとめたものを盛り込む必要があることが考えられます。

5. 出展者情報

● プレイベント

開催日	代表者	
8/27	○	工藤 洋（生態学研究センター・教授） 本庄 三恵（生態学研究センター・助教）

● オンラインでも膝詰め対話

開催日	代表者	
12/3	○	新津甲大（工学研究科・助教） 濱田鉄也（工学研究科・M2）
12/4	○	西本 希呼（学際融合教育研究推進センター・特定研究員／東南アジア地域 研究研究所・連携講師）
12/5	○	篠原 隆司（医学研究科・教授） 篠原 美都（医学研究科・助教）

6. 広報

今回はオンライン開催ということもあり、オンラインでの広報を重点的に行いました。記者レクチャーも実施し、新聞記事にも掲載されました。一方で従来の参加者への広報も意識し、ポスターの配布・掲示（大学や公共施設、市バス・地下鉄等）は従来通り行いました。

6-1. ポスター、中吊り広告

■ 6-1-1. ポスター（A2サイズ）



京都大学
アカデミックデイ2020
Kyoto University Academic Day 2020

開催日時：
2020年
12月
3日（木）19:00-20:15
4日（金）19:00-20:15
5日（土）14:00-15:15

オンラインでも聴録め対話
研究にまつわるあんな話、こんな話、研究者と対話参加者がオンライン上で食話します。
研究のおもしろさを聞きましょうか？

研究者と
研究について
一緒に考えてみませんか？

11/6（金）正午まで
対話参加者公募中！
対話参加者は必ずしもありません。

申し込み・詳細はこちら
参加費・無料！リスターのお申し込みは各日程とも開催前日ですが、定員（500名）に達し次第締め切らせていただきます。
<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2020>

一身近なところが研究室に—
今年は史上初のオンライン開催

市民との科学・技術対話
Kyoto University

■ 6-3-2. 中吊り広告 (B3 サイズ)



お問い合わせ先:
学芸部学芸アカデミックデイ事務局
E-mail: kenkyo-taiwag@med.kyoto-u.ac.jp

本誌:
京都大学 学術研究推進部、研究情報研究推進課、
学芸部の編集、制作部、ウェブデザイン部

開催日時:

2020年

12月

3日(木) 19:00-20:15

4日(金) 19:00-20:15

5日(土) 14:00-15:15



オンラインでも膝詰め対話

研究にまつわるあんな話、こんな話。研究者と対話参加者がオンライン上で会話をします。
リスナーとして研究のおもしろ話を聞きますか?

申し込み・詳細はこちら

参加費: 無料 リスナーの申し込みは各日限るとともに開催日前日までですが、定員(500名)に達し次第締め切らせていただきます。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2020>

研究者と
研究について
一緒に考えてみませんか?



Kyoto University Academic Day 2020
京都大学
アカデミックデイ
2020

—身近なところが研究室に—
今年は史上初の
オンライン開催



6-2. ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)

ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を利用して「京都大学アカデミックデイ 2020」の出展募集および集客を行いました。

● Web サイト

学術研究支援室 Web サイト

参加研究者（対話研究者）募集のほか、開催案内を「イベント案内」で告知しました。

- 対話研究者募集案内 : <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/hasshin/academic-day/>

京都大学「研究大学強化促進事業（文部科学省）」ウェブサイト (K. U. RESEARCH)

京都大学アカデミックデイ専用ページを設置し、トップにハッシュタグ「#京大アカデイ 2020」がついたコメント等が流れるように設定しました。

京都大学アカデミックデイウェブサイト

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

また、出展研究についても、個別ページを作成しました。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2020/>

京都大学 HP

- 開催案内 : <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/event/2020-10-21-0>

● SNS (Twitter、Facebook)

SNS は、Twitter の京都大学アカデミックデイ公式アカウントと、Facebook の K. U. RESEARCH アカウント、学術研究支援室の公式アカウントを用いました。開催日前日までは開催情報や出展情報などを告知し、開催日当日は主に Twitter を使って運営の様子を伝えました。

また、初のオンライン開催に向けて、Twitter と Facebook の有料広告機能を用い、全世界にアカデミックデイの開催情報を発信しました。

京都大学アカデミックデイ公式 (@KyodaiAcaDay) Twitter

<https://twitter.com/KyodaiAcaDay/>

Twitter では、ハッシュタグ「#京大アカデイ 2020」を活用し開催情報を、各研究の詳細ページと一緒に紹介しました。

京都大学「研究大学強化促進事業（文部科学省）」(K. U. RESEARCH) Facebook

<https://www.facebook.com/k.u.research>

ポスターやチラシの PDF 掲載、京都大学アカデミックデイ専用ページの情報等を掲載しました。また、Facebook でもハッシュタグ「#京大アカデイ 2020」を活用しました。

京都大学 学術研究支援室 (KURA Office) Facebook

<https://www.facebook.com/kuraoffice/>

学術研究支援室のアカウントでも、開催案内を行いました。



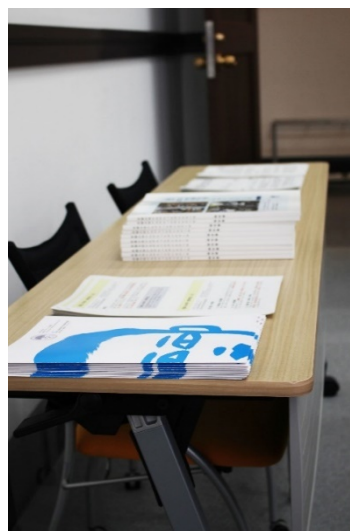
6-3. その他の広報物等

ポスターやWEBだけでなく、様々なチャネルで京都大学アカデミックデイを広報することを目的に、記者レクチャーやインターネット上でのイベント紹介サイト等での広報を行いました。

● 記者レクチャー

開催日：10月27日

掲載媒体（掲載日）：京都新聞（11月19日夕刊）、毎日新聞（11月3日朝刊）



● しおり

昨年に引き続き各京大生協の店舗でもしおりを配布しました。



● 生協サイネージ

広報期間：11月13日～12月14日



お問い合わせ先：
京都大学アカデミックデイ事務局
E-mail: kadyo@ku.wpi.kyoto-u.ac.jp

主催：
京都大学（学術研究推進部、研究推進国際化推進課、
「職員との協業・技術活用」ワーキンググループ）



研究者と
研究について
一緒に考えてみませんか？



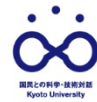
京都大学
アカデミックデイ
2020

開催日時：

2020年
12月3日（木）、4日（金）、5日（土）

申し込み・詳細はこちら

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2020>



7. 支援体制・スケジュール

7-1. 支援体制

京都大学アカデミックデイは、京都大学による「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。支援体制は以下の通りです。

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ委員

工藤洋	生態学研究センター	教授
喜多一	国際高等教育院	教授
藤原辰史	人文科学研究所	准教授
塩瀬隆之	総合博物館	准教授
元木環	情報環境機構／学術情報メディアセンター	助教
高橋裕幸	総務部渉外課	課長
榎本賢也	総務部広報課	課長
林紀英	研究推進部研究推進課	課長
佐治英郎	学術研究支援室	室長

学術研究支援室 (KURA)

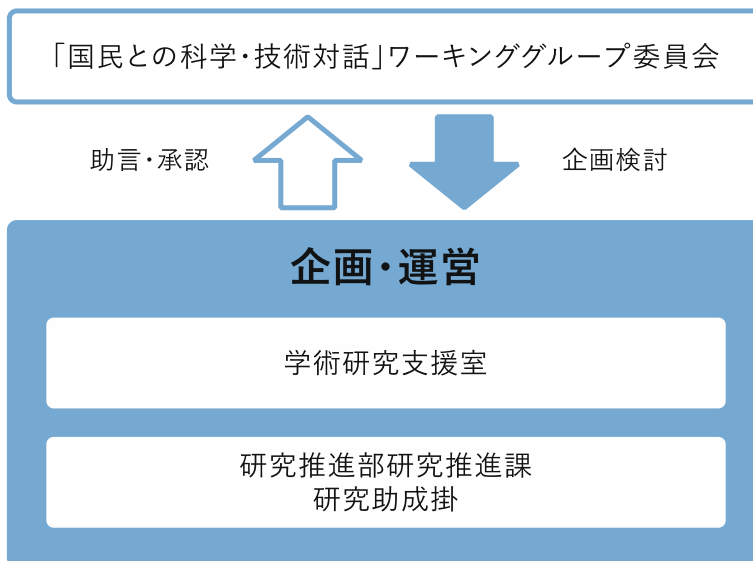
大西将徳	学術研究支援室	URA
白井哲哉	学術研究支援室	URA
仲野安紗	学術研究支援室	URA (現 学際融合教育研究推進センター 特定准教授)
太田一陽	学術研究支援室	URA
藤田弥世	学術研究支援室	URA
西紋あかり	学術研究支援室	事務担当職員

研究推進部研究推進課

結城美和	課長補佐
松本寛史	研究助成掛
大田瞳	研究助成掛

7-2. スタッフリスト

企画	学術研究支援室 (KURA) 研究推進部研究推進課
デザイン (広報)	仲村健太郎 平井利和
監修	「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ



7-3. 準備スケジュール

＜オンライン開催の検討＞			
2020年	1月		コロナ禍でどのような対話活動を実施するかチームで検討開始
	6月	25日	2020年度 京都大学「国民との科学・技術対話」第1回 WG 開催 → オンラインでの開催の方針に。
	8月	5日	2020年度 京都大学「国民との科学・技術対話」第2回 WG 開催 → オンラインでの開催の具体的な内容についてWGで了解。
＜プレイベント開催＞			
2020年	8月	18日	プレイベント対話研究者、対話参加者決定
	8月	21日	プレイベントリスナー広報開始
	8月	27日	アカデミックデイ 2020 プレイベント実施
＜京都大学アカデミックデイ 2020 開催＞			
2020年	8月	下旬	一般広報の検討開始（デザイナーと打合せ開始）
	9月	11日～	対話研究者の公募予告（KURA WEB、KURA SNS、教員ポータル、研推全学メール等）
	9月	24日 10:00～ 10月7日 12:00	対話研究者の出展申込期間
	10月	9日	出展可否の連絡期限
	10月	16日	イベント告知（対話参加者、リスナー募集開始）
	10月	22日～29日	Facebook 広告①
	10月	27日	記者レクチャー
	10月	30日	ポスター発送
	10月	30日～11月5日	Twitter 広告①
	11月	8、9日	対話研究者と打合せ
	11月	17日～23日	市バス、地下鉄中吊り広告
	11月	13日	対話参加者決定の連絡期限
	11月	13日～19日	Facebook 広告②
	11月	20日～26日	twitter 広告②
	11月	25日	対話参加者決定
	12月	3日～5日	アカデミックデイ 2020 当日

編集者 大西将徳（学術研究支援室）
藤田弥世（学術研究支援室）
太田一陽（学術研究支援室）
白井哲哉（学術研究支援室）
西紋あかり（学術研究支援室）
松本寛史（研究推進部研究推進課研究助成掛）
大田瞳（研究推進部研究推進課研究助成掛）

発行日 2021年3月

発行 学術研究支援室

研究推進部研究推進課

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ

問合せ 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学 学術研究支援室

Tel : 075-753-5108

E-mail : kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※職名・組織名等は開催当時の名称です。

